

目黒区美術館年報 平成4年度

目黒区美術館年報
平成4年度

目次

I. 展覧会	4
II. 教育普及	40
III. 入館状況	43
IV. 作品収集	44
V. 作品貸出	47
VI. 刊行	49
VII. 区民ギャラリー	50
VIII. ボランティア	52
IX. 名簿	53
X. 沿革	55
XI. 施設	56
XII. 案内	57

1. 展覧会

シャガール ひびきあう色彩の詩展 —連作版画と油彩—

会期：1992(平成4)年4月11日－5月17日

会場：展示室A・B・C, 展示ロビー, ワークショップ, エントランスホール

主催：目黒区美術館／毎日新聞社

後援：フランス大使館

協力：笠間日動美術館

担当学芸員：矢内みどり

巡回スケジュール：1992年3月7日－4月5日 笠間日動美術館
9月20日－10月11日 北海道・苫小牧(サン・プラザ)
10月21日－11月29日 河口湖美術館
1993年1月3日－2月7日 福岡・田川美術館
2月13日－3月21日 平塚市美術館
4月20日－5月10日 北海道・北見文化センター美術館
5月15日－5月31日 仙台市民ギャラリー

マルク・シャガールはソ連邦の解体に大きな力となったスラブ系三共和国のひとつベラルーシ(旧白ロシア)に生まれた。彼は、敬虔なユダヤ教徒でもあり、スラブの素朴な農民魂とからみあって、故郷の風景、人々、動物などが登場する幻想的な世界を描き続けた。

本展では、シャガールが晩年に完成した四つの版画シリーズ「悪童たち」「サーカス」「以心伝心」「創造」計87点を中心に代表的挿画本と連作版画を日本で初めて一挙に展示した。これらの作品は、色彩のひびきあうような万物照応の世界をみごとに表現した傑作である。また、本展ではこのほか6点の油彩、2点のグワッシュもあわせて展示した。

●カタログ

寸法：27.0×22.0cm

ページ数：101頁

内容：ごあいさつ(主催者)／シャガールの版画(藤井久栄)／連作版画、挿画本について(矢内みどり)／図版／略年譜／シャガール小事典(中島理壽)／マルク・シャガール：主な日本語文献(中島理壽)／出品目録

●ポスター

サイズ：B2, B3

●チラシ

サイズ：B5

●鑑賞用てびき

サイズ：24.0×21.0cm ページ数8頁



B2ポスター



会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	技法	イメージサイズ(cm)	用紙サイズ(cm)
1	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	34.4×26.6	43.0×33.0
2	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	37.1×27.3	43.0×33.0
3	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	36.9×27.1	43.0×33.0
4	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	34.9×26.7	43.0×33.0
5	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	37.4×27.4	43.0×33.0
6	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	34.6×27.3	43.0×33.0
7	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	37.0×27.8	43.0×33.0
8	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	37.2×27.3	43.0×33.0
9	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	37.7×27.2	43.0×33.0
10	〈悪童たち〉より	1958	エッチング	34.6×26.6	43.0×33.0
11	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
12	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
13	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
14	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
15	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
16	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
17	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
18	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
19	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
20	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
21	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
22	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
23	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
24	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
25	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
26	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
27	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×64.0	42.0×64.0
28	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
29	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×64.0	42.0×64.0
30	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
31	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
32	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
33	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
34	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
35	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
36	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
37	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
38	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0

No.	作品名	制作年	技法	イメージサイズ(cm)	用紙サイズ(cm)
39	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
40	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
41	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×64.0	42.0×64.0
42	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
43	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
44	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
45	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
46	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
47	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
48	〈サーカス〉より	1967	リトグラフ	42.0×32.0	42.0×32.0
49	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
50	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
51	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
52	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
53	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
54	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
55	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
56	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
57	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
58	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
59	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
60	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
61	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
62	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
63	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
64	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
65	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
66	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
67	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
68	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
69	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
70	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
71	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
72	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
73	〈以心伝心〉より	1976	エッチング	39.5×30.0	47.5×36.0
74	創造	1980	リトグラフ	94.0×59.0	116.0×75.5
75	だそがれの男女	1980	リトグラフ	94.0×59.0	116.0×75.5
76	オペラ座の空で	1980	リトグラフ	94.0×59.0	116.0×75.5
77	セーヌの両河岸	1980	リトグラフ	93.5×59.5	116.0×75.5
78	リラ	1980	リトグラフ	92.0×59.5	116.0×75.5
79	歓び	1980	リトグラフ	94.0×60.5	116.0×75.5
80	ノートル・ダムの眺め	1980	リトグラフ	91.0×59.0	116.0×75.5
81	道化の音楽師	1980	リトグラフ	95.0×60.0	116.0×75.0
82	バラ色の花束	1980	リトグラフ	94.0×59.0	116.0×75.0
83	魔法の飛行	1980	リトグラフ	94.0×59.0	116.0×75.5
84	パレード	1980	リトグラフ	94.0×59.5	116.0×75.0
85	サーカスの魂	1980	リトグラフ	59.5×94.0	75.0×116.0
86	丸太小屋の恋人たち	1980	リトグラフ	59.5×94.0	75.0×116.0
87	赤い服の母と子	1980	リトグラフ	94.0×59.5	116.0×75.0

No.	作品名	制作年	素材, 技法	サイズ(cm)
88	村のパン屋	1910	油彩, キャンヴァス	60.0×73.0
89	家族の食事		グワッシュ, 紙	50.0×65.0
90	ヴィテブスタの冬の夜	1947	油彩, キャンヴァス	44.7×59.0
91	マーガレットと恋人たち	1949-50	油彩, キャンヴァス	72.6×47.0
92	花束とカップル(笠間日動美術館蔵)		油彩, キャンヴァス	61.0×50.0
93	アダムとイヴ	c.1950	グワッシュ・パステル, 紙	68.0×53.0
94	オペラ座の人々	1968-71	油彩, キャンヴァス	130.0×96.8
95	茶色のロバに乗った母と子	1978	油彩, キャンヴァス	33.0×41.1

澤部清五郎展 — 絵筆のゆくえ、インテリアへの道 —

会期：1992(平成4)年5月23日－6月28日

会場：展示室A・B・C、展示ロビー、ワークショップ、エントランスホール

主催：目黒区、目黒区教育委員会、目黒区美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、川島織物文化館

協賛：花王株式会社

担当学芸員：山田敦雄

澤部清五郎は13歳で日本画を学び、はやくから装飾織物の大家・川島甚兵衛に認められ、織物制作の仕事に関わった。後、浅井忠のもとで安井曾太郎や梅原龍三郎とともに洋画を学ぶ一方、平等院や金閣の壁画を模写、日本の古典的な美にも開眼する。1910年(明治43年)から1913年(大正2年)にはニューヨークとパリに渡り、洋画を学びながら西洋の装飾文様にも理解を深めた。こうした素養の上で、澤部は、日本画、洋画、そして装飾織物のデザイン・原画に数多くの優れた仕事を残した。本展は、こうした澤部の功績を、日本画、油彩、水彩、装飾織物の原画と完成品など計167点の作品で回顧したものである。

●カタログ

寸法：24.0×25.5cm

ページ数：141頁

内容：ごあいさつ(主催者)/故人を偲びつつ(岡部正)/近代日本美術史における澤部清五郎の存在(原田平作)/図版：絵画編、織物・室内装飾編、参考図版/澤部清五郎とインテリアデザイン(上原茂)/インテリアへの道-澤部清五郎の足跡-(藤本恵子)/絵筆のゆくえ-画家・澤部と五人の師-(山田敦雄)/出品リスト/略年譜/用語解説

●ポスター

サイズ：B2、B3

●チラシ

サイズ：B5

●主要関連記事、報道

現代ジャーナル「皇帝のインテリアデザイナー」NHK教育TV8：00～8：45 1992年6月3日

シンポジウム「澤部清五郎とその時代」三彩 1992年6月号 No.537(目黒区美術館内で対談し、ビデオ化して展示会場で放映。)

「'92上半期の美術界をふりかえる 上半期美術界総論」中山公男 美術の窓 1992年8月号 No.117



会場風景



132ポスター

出品目録

No.	作品名	制作年	素材, 技法	寸法 (cm)	所蔵先
● 絵画編					
1	韓信(模写)	1897頃	紙本着色(軸装)	114.2×53.2	星野画廊
2	叡島神社所蔵経巻写(第一巻)	1899頃	紙本着色(経巻)	35.3×1798.0	京都国立博物館所蔵模写本再模写 川島織物文化館
3	叡島神社所蔵経巻写(第二巻)	1899頃	紙本着色(経巻)	36.0×1148.0	京都国立博物館所蔵模写本再模写 川島織物文化館
4	本を読む少女	1904頃	油彩, 板	26.8×20.1	星野画廊
5	平等院鳳凰堂扉絵模写	1905	絹本着色(軸装6巻)		京都工芸繊維大学美術工芸資料館(No.3471)
6	鹿苑寺金閣第二層潮音洞天井画模写	1906	絹本着色(軸装8巻)		京都工芸繊維大学美術工芸資料館(No.3475)
7	農家	1905頃	水彩, 紙	26.0×17.8	目黒区美術館
8	素描	1906	木炭, 紙	62.8×48.0	目黒区美術館
9	素描	1906	木炭, 紙	62.8×48.0	目黒区美術館
10	素描	1907頃	木炭, 紙	62.8×48.0	目黒区美術館
11	自画像	1908	油彩, 板	23.0×33.5	目黒区美術館
12	梳	1909	油彩, キャンバス	87.6×60.0	京都国立近代美術館
13	桜	1909頃	油彩, キャンバス	66.9×39.2	千葉県立美術館
14	東寺	1910頃	油彩, 板	23.0×33.1	
15	富士(白糸)	1909	水彩, 紙	24.3×33.2	星野画廊
16	富士(大室)	1909	水彩, 紙	24.3×33.2	練馬区立美術館
17	富士(舟津)	1909	水彩, 紙	24.3×33.2	星野画廊
18	富士	1909	水彩, 紙	24.2×33.2	星野画廊
19	花賣娘	1909	水彩, 紙	29.0×38.2	星野画廊
20	宇奈月(富士館より)	1909頃	水彩, 紙	24.3×33.2	練馬区立美術館
21	嵐山	1909頃	水彩, 紙	24.3×33.2	星野画廊
22	ハドソン河	1912	油彩, キャンバス	40.8×51.3	目黒区美術館
23	ハドソン河のほとり	1910-12	油彩, 板	29.4×21.8	京都国立近代美術館
24	ハドソン河の朝靄	1912	油彩, キャンバス	93.1×70.0	千葉県立美術館
25	ハドソン河	1910	油彩, ボード	22.5×31.2	目黒区美術館
26	ハドソン河	1911-12	油彩, ボード	23.0×31.0	目黒区美術館
27	ナハント海岸	1911	油彩, ボード	23.6×31.0	目黒区美術館
28	窓からのながめ(1)	1911	油彩, ボード	31.0×23.5	目黒区美術館
29	窓からのながめ(2)	1911-12	油彩, 板	22.5×33.2	目黒区美術館
30	ヴァン・コートランド公園	1911	油彩, ボード	22.8×31.2	目黒区美術館
31	婦人像	1912	油彩, ボード	31.0×22.5	目黒区美術館
32	アメリカ風景	1911-12	油彩, ボード	31.0×22.8	目黒区美術館
33	素描	1912頃	木炭, 紙	62.2×47.4	目黒区美術館
34	素描	1912	木炭, 紙	62.2×47.4	目黒区美術館
35	素描	1912頃	木炭, 紙	62.2×47.4	目黒区美術館
36	人体習作	1911-13	油彩, キャンバス	60.6×50.0	星野画廊
37	バラの髪飾り(赤き衣まとえる女)	1912	油彩, キャンバス	71.6×58.0	星野画廊
38	少女像	1912	油彩, キャンバス	80.1×63.6	京都国立近代美術館
39	絵をかく少女	1912	油彩, キャンバス	55.0×45.8	京都市美術館
40	少女	1912	油彩, キャンバス	46.0×32.6	目黒区美術館
41	アトリエにて	1912	油彩, キャンバス	51.0×40.5	目黒区美術館
42	サンミッシェル橋夜景	1912	油彩, 板	15.4×22.0	
43	セーヌ河岸	1912	油彩, 板	15.2×22.0	目黒区美術館
44	ムードンの画室街	1912	油彩, ボード	35.0×27.0	目黒区美術館
45	パリ風景	1913	油彩, キャンバス	41.0×50.7	千葉県立美術館
46	パリの公園	1913	油彩, キャンバス	41.0×51.0	京都市美術館
47	パリの公園	1912-13	油彩, キャンバス	36.0×47.0	星野画廊
48	ショールの女(戸の前に)	1913	油彩, キャンバス	80.4×65.0	星野画廊

No.	作品名	制作年	素材,技法	寸法(cm)	所蔵先
49	婦人像(椅子に倚れる女)	1913	油彩,キャンバス	70.0×54.5	千葉県立美術館
50	婦人像(カフェ呑む女)	1913	油彩,キャンバス	63.2×53.0	京都国立近代美術館
51	髪結える少女	1913	油彩,キャンバス	72.6×59.9	目黒区美術館
52	スパニョラの厨	1913	油彩,板	34.8×26.8	星野画廊
53	マロニエ	1913	水彩,紙	31.5×32.8	目黒区美術館
54	マロニエの花	1913頃	油彩,キャンバス	45.5×33.5	
55	パリの街角	1913頃	油彩,板	22.0×15.2	目黒区美術館
56	ルクサンブールの人形芝居	1913	油彩,ボード	27.0×35.0	目黒区美術館
57	ルクサンブールの冬	1913	油彩,ボード	35.0×27.0	目黒区美術館
58	パリの朝	1913	油彩,ボード	27.0×35.0	目黒区美術館
59	カプリ	1913	油彩,ボード	27.0×35.0	目黒区美術館
60	初夏のカフェ	1913	油彩,ボード	32.5×24.7	目黒区美術館
61	ダンス	1913	油彩,板	26.5×34.9	星野画廊
62	パリ郊外	1913	油彩,キャンバス	49.7×40.6	星野画廊
63	化粧(爪磨く女)	1913	油彩,板	22.1×15.0	
64	鏡の前	1913頃	油彩,キャンバス	50.7×40.6	星野画廊
65	女	1913頃	油彩,キャンバス	48.0×40.0	星野画廊
66	サンセバスチャンの家	1912	水彩,紙	40.0×26.5	目黒区美術館
67	セゴビアの家	1912	水彩,紙	40.0×26.5	目黒区美術館
68	コルドバ	1912	水彩,紙	40.0×26.5	目黒区美術館
69	セゴビア	1912	水彩,紙	40.0×26.5	目黒区美術館
70	セゴビアの城門	1912	水彩,紙	40.0×26.5	目黒区美術館
71	シエーナ	1912-13	水彩,紙	45.0×29.3	目黒区美術館
72	モナコのヨット	1912-13	水彩,紙	29.3×45.0	目黒区美術館
73	裸婦(1)	1912-13	コンテ,紙	32.5×32.9	星野画廊
74	裸婦(2)	1912-13	コンテ,紙	32.5×32.9	星野画廊
75	リヨン風景	1915	絹本着色(額装)	70.0×89.0	財団法人西陣織物館
76	ハドソンの岸	1916頃	絹本着色(軸装)	114.2×33.7	星野画廊
77	地中海の漁船	1916	絹本着色(軸装)	114.2×33.6	
78	ムードンの秋	1916	絹本着色(軸装)	115.8×34.0	星野画廊
79	ブルーロンの森	1916	絹本着色(軸装)	119.1×41.6	星野画廊
80	アッシジ付近	1931	絹本着色	121.0×39.7	星野画廊
81	ダンス	1916	絹本着色	27.9×81.4	
82	漁の前	1917	油彩,板	25.8×34.8	星野画廊
83	海女	1917	油彩,キャンバス	64.2×79.5	星野画廊
84	日光中禅寺道	1921	絹本着色(額装)	36.4×132.0	
85	四季草花	1922	絹本着色(屏風六曲一双)	137.0×276.0 (各隻)	
86	上の関にて(1)	1924	水彩,紙	33.1×24.6	星野画廊
87	上の関にて(2)	1924	水彩,紙	24.6×33.1	星野画廊
88	万歳楽	1925	絹本着色(軸装)	48.8×61.2	
89	新緑の森	1926頃	油彩,キャンバス	65.0×49.7	星野画廊
90	本隆寺客殿襖絵(1) 桜花	1927	紙本着色(襖8面)	177.6×464.8	本隆寺
91	本隆寺客殿襖絵(2) 舞楽,納曾利	1927	紙本着色(襖4面)	175.7×560.0	本隆寺
92	狂言		紙本着色	33.8×43.8	星野画廊
93	雅楽		油彩,板	32.9×23.9	星野画廊
94	支那牡丹		油彩,板	34.6×26.0	星野画廊
95	風景		油彩,キャンバス	50.1×65.2	星野画廊
96	裸婦習作		油彩,板	32.2×41.0	目黒区美術館
97	石楠花	1956	油彩,キャンバス	45.6×53.0	星野画廊
● 織物,室内装飾編					
98	日本三景式室内装飾図	1904頃	絹本着色	81.8×95.8	川島織物文化館
99	御料車第8号室内装飾 御座所壁面唐錦パネル原図	1915頃	紙本着色(軸装)	173.5×78.3	川島織物文化館
100	御料車第8号室内装飾 御座所壁面唐錦パネル原図(6面)	1915頃	紙本着色(軸装)	82.3×212.0	川島織物文化館

No.	作品名	制作年	素材, 技法	寸法(cm)	所蔵先
101	御料車第8号室内装飾 御座所天井張唐錦原図	1915頃	絹本着色(軸装)	112.5×128.0	川島織物文化館
102	花摘 綴錦壁掛1/10小下絵(試案)	1917	紙本着色	32.1×63.3	川島織物文化館
103	蹴鞠 綴錦壁掛1/10小下絵(試案)	1917	紙本着色	32.3×62.5	川島織物文化館
104	紅葉狩 綴錦壁掛1/10小下絵(秋庭観楓)	1917	紙本着色	30.2×60.0	川島織物文化館
105	鷹狩 綴錦壁掛1/10小下絵(春郊鷹狩)	1917	紙本着色	30.1×60.0	川島織物文化館
106	鷹狩 綴錦壁掛1/10小下絵(春郊鷹狩)	1917頃	紙本着色	21.4×51.2	川島織物文化館
107	春郊鷹狩 綴錦壁掛縮尺原図	1918	絹本着色(屏風)	146.5×327.4	川島織物文化館
108	秋庭観楓 綴錦壁掛縮尺原図	1918	絹本着色(屏風)	146.5×327.4	川島織物文化館
109	春郊鷹狩	1923	綴錦壁掛	303.0×606.0	宮内庁
110	秋庭観楓	1924	綴錦壁掛	303.0×606.0	宮内庁
111	御料車第10号室内装飾 御座所壁面綴錦パネル原図	1921	絹本着色	126.2×87.5	川島織物文化館
112	凱旋舞楽 綴錦壁掛小下絵	1923頃	紙本着色	24.9×34.8	川島織物文化館
113	舞楽蘭陵王童舞(凱旋舞楽)	1925	綴錦壁掛	294.3×409.0	川島織物文化館
114	日光祭礼 綴錦壁掛原画	大正期	絹本着色(軸装)	119.0×178.3	川島織物文化館
115	ホテルニューグランド室内装飾 綴錦下絵, 織下絵類	1927頃	紙本着色		川島織物文化館
116	浅間丸特等室室内装飾 居間綴錦パネル原図	1929	紙本着色(額装)	67.6×110.2	川島織物文化館
117	浅間丸特等室室内装飾 寢室綴錦パネル原図	1929	紙本着色	134.0×190.5	川島織物文化館
118	国会議事堂御便殿室内装飾 1/20立面図(北側壁面)	1931頃	紙本着色	47.7×63.1	川島織物文化館
119	国会議事堂御便殿室内装飾 1/20立面図(西側壁面)	1931頃	紙本着色	47.7×63.1	川島織物文化館
120	舞楽 綴錦類小下絵	1930頃	紙本着色	42.5×52.8	川島織物文化館
121	御料車第1号室内装飾 装飾裂地見本帖	1931-32		51.0×66.4	* 展開図, 原寸図, 試織類28面 (14枚)うち6面空白 川島織物文化館
122	御料車第2号室内装飾 綴錦壁張見本織(朝の青海)		綴錦	152.0×41.0 (模様部分)	川島織物文化館
123	御料車第2号室内装飾 装飾裂地見本帖	1932-33		51.0×66.4	* 展開図, 原寸図, 試織類26面 (13枚) 川島織物文化館
124	阿蘭陀船 綴錦壁掛小下絵(試作)	1934頃	紙本着色	38.0×67.0	川島織物文化館
125	末吉船, 阿蘭陀船 綴錦壁掛小下絵	1934頃	紙本着色	26.1×56.3	川島織物文化館
126	末吉船 綴錦壁掛原図	1934	紙本着色(軸装)	213.0×176.0	川島織物文化館
127	阿蘭陀船 綴錦壁掛原図	1934	紙本着色(軸装)	177.0×213.5	川島織物文化館
128	末吉船	1935	綴錦壁掛		ロイヤルホテル
129	阿蘭陀船	1935	綴錦壁掛		ロイヤルホテル
130	御料車第3号室内装飾 装飾裂地見本帖	1935		51.0×66.4	* 展開図, 原寸図, 試織類26面 (13枚) 川島織物文化館
131	御料車第3号室内装飾 御座所クッション 原寸図	1935	紙本着色(軸装)	54.0×54.0(2点)	川島織物文化館
132	厳島管弦祭 綴錦壁掛原図	1936	紙本着色(軸装)	185.5×267.3	川島織物文化館
133	富貴花鳥(綬帯鳥) 綴錦壁掛原図	1938	紙本着色(軸装)	185.5×215.0	川島織物文化館
134	富貴花鳥(綬帯鳥)	1938	綴錦壁掛		
135	舞楽蘭陵王童舞 綴錦壁掛原図	1939	絹本着色(軸装)	210.0×149.8	川島織物文化館
136	舞楽納曾利童舞 綴錦壁掛原図	1939	絹本着色(軸装)	210.0×149.8	川島織物文化館
137	鷹狩図 綴錦壁掛1/5小下絵(試案)	1939	絹本着色	61.5×44.0	川島織物文化館
138	蓬萊山 綴錦壁掛1/2原図	1939	紙本着色(軸装)	125.4×91.8	川島織物文化館
139	満州国宮殿装飾 綴錦壁掛1/10試案	1941	絹本着色	39.4×102.4	川島織物文化館
140	満州国宮殿装飾 綴錦壁掛1/10試案	1941	紙本着色	39.4×102.4	川島織物文化館
141	満州国宮殿装飾 謁見室綴錦壁張試案	1943頃	紙本着色	45.7×68.6, 45.7×68.7, 45.4×73.0	川島織物文化館
142	満州国宮殿装飾 1/20展開図(正殿一部)	1944頃	紙本着色	80.9×58.6	川島織物文化館

No.	作品名	制作年	素材、技法	寸法(cm)	所蔵先
143	満州国宮殿裝飾 1/20展開図(謁見室一部)	1944頃	紙本着色	61.9×84.2	川島織物文化館
144	満州国宮殿裝飾 1/20展開図(饗宴場一部)	1944頃	紙本着色	61.9×84.9	川島織物文化館
145	満州国宮殿裝飾 1/20展開図(饗宴場一部)	1944頃	紙本着色	79.3×58.9	川島織物文化館
146	満州国宮殿裝飾 正殿緞帳原寸図	1944頃	紙本着色	68.2×135.2	川島織物文化館
147	満州国宮殿裝飾 饗宴場緞帳原寸図	1944頃	紙本着色	66.0×135.0	川島織物文化館
148	満州国宮殿裝飾 正殿緞帳試織	1944頃	綴錦	81.0×58.7	川島織物文化館
149	満州国宮殿裝飾 正殿緞帳試織	1944頃	綴錦	81.0×58.4	川島織物文化館
150	満州国宮殿裝飾 饗宴場緞帳試織	1944頃	綴錦	33.5×80.5	川島織物文化館
151	池塘春陽 綴錦壁掛原図	1947	紙本着色	190.5×341.5	川島織物文化館
152	池塘秋映 綴錦壁掛原図	1947	紙本着色	190.5×342.0	川島織物文化館
153	池塘秋映	1948	綴錦壁掛	263.0×394.0	シルク博物館
154	最高裁判所室内裝飾 1/20大法廷内部改装案	1948	紙本着色	50.0×71.6	川島織物文化館
155	太子鷹狩 綴錦壁掛原図	1949	紙本着色(軸装)	293.0×211.3	* 大高為山原画 川島織物文化館
156	孔雀牡丹 綴錦壁掛原図	1954	紙本着色(軸装)	121.4×91.4	川島織物文化館
157	孔雀牡丹 綴錦壁掛織下図	1954	紙本着色	122.0×91.0	川島織物文化館
158	蹴鞠 綴錦小下絵(試作)	1959頃	紙本着色	32.5×47.9	川島織物文化館
159	蹴鞠 綴錦屏風原図	1959	紙本着色(軸装, 4分割)	左右2幅: 143.0×56.8, 中2幅: 143.0×67.5	川島織物文化館
160	桜花舞踊(やすらい花) 綴錦壁掛原図	1959頃	紙本着色(軸装)	43.8×59.0	川島織物文化館
161	蘭陵王童舞 綴錦壁掛小下絵(試作1)	1962頃	紙本着色	36.2×27.0	川島織物文化館
162	蘭陵王童舞 綴錦壁掛小下絵(試作2)	1962頃	紙本着色	34.2×28.0	川島織物文化館
163	みをつくし 唐錦額原図		紙本着色	44.4×59.8	川島織物文化館
164	天平瑞鳥花紋丸帯 綴錦丸帯(見本織)			168.8×64.5	川島織物文化館
165	丸帯 綴錦丸帯(見本織)				川島織物文化館
166	清五郎画帖(大) 紙本着色(画帖)			46.5×42.4	* 紙本着色13点 川島織物文化館
167	清五郎画帖(小) 紙本着色(画帖)			28.8×25.2	* 紙本着色25点 川島織物文化館

目黒区美術館開館5周年企画
 ワークショップ・手と目の冒険広場
色の博物誌・青—永遠なる魅力—

会期：1992(平成4)年8月1日—9月15日

会場：展示室A・B・C, 展示ロビー, ワークショップ, エントランスホール

主催：目黒区美術館/目黒区教育委員会

協賛：アサヒビール/㈱M&A/㈱東芝/芸術文化振興基金/東洋信託文化財団/日本コダック㈱/ホルベイン工業㈱/リーバイス・ストラウス ジャパン㈱

担当学芸員：降旗千賀子

ワークショップ・アシスタント：榎本寿紀

《ワークショップ・手と目の冒険広場》では、色彩に視点をさだめ、色の持つイメージやテクスチャー、マチエールの広がりや深さを視覚的、触覚的に再確認していくという主旨で、今回より「色シリーズ」を新たに加えた。その第1回として、今回は“青”を取り上げた。自然鉱物の中でも特に珍重されたラピスラズリやアズライトの青い石と、そこから採取された色料など、素材面での導入を回り、東西における青のイメージの違いを確認し、絵画にあらわされた精神的なシンボルとしての青へと展開した。日本画、洋画、染織、陶器などの作品に、鉱石、染料などの青の色材を加え、計141点を展示した。

●カタログ

寸法：28.0×22.5cm

ページ数：79頁

デザイン：大石一義

内容：ごあいさつ(加藤貞雄)/瑠璃考(森田恒之)/青とは、いわば魅惑してやまぬ無の世界—近代絵画における色彩のありか—(前田富士男)/図版：青への誘い(自然の中の青い石、青のトピックス—世界の青・日本の青)、青の系譜—近代から現代1(青—光の中の輝き、青の心象) 青の系譜—近代から現代2(色の独立—青の調べ、広がりゆく青の世界—現代の表現から)/青を視覚的な肌触りとして感じるために(降旗千賀子)/作家解説/作品リスト/主要参考図書/「色の博物誌・青—永遠なる魅力」ワークショップ

●ポスター サイズ：B2, B3/デザイン：大石一義

●チラシ サイズ：B5/デザイン：大石一義

●こどもチラシ 寸法：37.5×17.3 三つ折(12.5×17.3, 6ページ)/デザイン：美術出版デザインセンター

●ワークショップ(II, 教育普及の項参照 P.40)

●主要関連記事

“Meguro museum sets new workshop standards”

The Japan Times 1992年8月2日

「正攻法のワークショップ活動に好感」 三田晴夫 毎日新聞夕刊 1992年8月12日

「色の博物誌・青—永遠なる魅力」 ワシオ・トシヒコ 公明新聞 1992年8月22日

「色の博物誌・青—永遠なる魅力」 倉林靖 サンタクロース 文藝春秋情報出版 1992年8月26日

「自分だけの〈青い国〉を作る」 毎日小学生新聞 1992年9月7日

「視る・創る・触れる 企画展—東京・目黒区美術館の試み—」

内藤久美子 赤旗 1992年9月6日

「色の博物誌・青—永遠なる魅力」 Printers Circle 日本印刷技術協会 1992年9月

「不思議な懐かしさ秘めた青」 生田誠 サンケイ新聞 1992年9月5日



B2ポスター



会場風景

出品目録

No.	資料名	産地	所蔵先
I 部 青への誘い			
● 自然の中の青い石			
I-1~3	ラピスラズリ(Lapis lazuli,〈ラズライト, Lazurite〉)	アフガニスタン	工業技術院地質調査所
I-4~8	藍銅鉱(アズライト, Azurite)	中国広東省, オーストラリア, アメリカ, ミクロネシア	工業技術院地質調査所
I-9, 10	孔雀石(マラカイト, Malachite)	ザイール, 秋田県荒川鉱山	工業技術院地質調査所
I-11	藍銅鉱と孔雀石(Azurite & Malachite)	アメリカ	工業技術院地質調査所
I-12, 13	天河石(アマゾンナイト, Amazonite〈微斜長石の変種〉)	アフリカ, アメリカ	工業技術院地質調査所
I-14	蛍石(フローライト, Fluorite)	アメリカ	工業技術院地質調査所
I-15	青針銅鉱(カイアノトリカイト, Cyanotrichite)		工業技術院地質調査所
I-16	藍晶石(カイアナイト, Kyanite)	アフガニスタン	工業技術院地質調査所
I-17	天青石(セレスティン, Celestine)	マダガスカル	工業技術院地質調査所
I-18	サーピエリ石(サーピエライト, Serpierite)	岐阜県黒川鉱山	工業技術院地質調査所
I-19	青鉛鉱(リナライト, Linarite)	アメリカ	工業技術院地質調査所
I-20	胆礬(カルカンサイト, Chalcantinite)	岩手県土畑鉱山	工業技術院地質調査所
I-21	サファイア(Sapphire,〈コランダム, Corundum〉)	奈良県逢坂	工業技術院地質調査所
I-22	人造サファイア(Synthesized sapphire)		工業技術院地質調査所
I-23	方ソーダ石(ソーダライト, Sodalite)	ブラジル	工業技術院地質調査所
I-24	珪孔雀石(クリソコラ, Chrysocolla)	チリ	工業技術院地質調査所
I-25	翠銅鉱(ディオプテース, Dioptase)	ナミビア	工業技術院地質調査所
I-26	トルコ石(タークオイズ, Turquoise)	アメリカ	工業技術院地質調査所

No.	作品名	産地・作家名	制作年	素材、技法	寸法 (cm)	版元	所蔵
● 青のトビックスー世界の青・日本の青							
I-27	首飾り一連	アフガニスタン	BC1800頃	ラピスラズリ	長径18.0, 短径9.0		
I-28	首飾り一連	イラン	BC1000頃	ラピスラズリ	長径18.0, 短径7.0		
I-29	ライオン形護符	シリア	BC3500頃	ラピスラズリ他	長2.0		古代オリエント博物館
I-30	ホルス神頭(?)スカラブ	エジプト	BC1000頃	ラピスラズリ			古代オリエント博物館
I-31	青緑釉黒彩花鳥文の蓋付容器	エジプト	第18王朝(BC16-14世紀)	ファイアンス	高11.0, 幅7.5		大原美術館
I-32	青緑釉黒彩蓮花文の小壺	エジプト	新王国(BC16-11世紀)	ファイアンス	高9.0, 幅6.0		大原美術館
I-33	青釉刻線鳥文鉢	イラン	12世紀	陶器	径18.3		中近東文化センター
I-34	白地藍彩把手付壺	イラン, 伝カシャー	13世紀	陶器	高12.0		中近東文化センター
I-35	藍釉金彩鉢	イラン	13世紀	陶器	高10.6, 径48.7		中近東文化センター
I-36	シモーネ・マルチャーニ画《受胎告知(1333)》復元模写	石原増夫	1972-78	テンペラ, 板	230.0×180.0		
I-37	聖家族	作者不詳	17世紀	油彩, キャンバス	128.5×104.3		ひろしま美術館
I-38	勾玉	常陸国鏡塚	古墳時代	硬玉(ひすい)	長3.5		国学院大学考古学資料館
I-39	勾玉		古墳時代	硬玉(ひすい)	長6.0		国学院大学考古学資料館
I-40	勾玉・管玉首飾り一連		古墳時代	碧玉(青めのう)他	長径27.0, 短径13.0		国学院大学考古学資料館
I-41	首飾り一連		古墳時代	鉛ガラス, めのう, 水晶	長径24.0, 短径8.0		国学院大学考古学資料館
I-42	古染付小皿		明代末(17世紀頃)	磁器	径8.5		
I-43	伊万里染付大皿		江戸中期(18世紀)	磁器	径35.0		
I-44	染付六角向付(柿蓐門手)		17世紀後期	磁器	径10.0		
I-45・1~7	古伊万里染付陶片	稗古場窯趾, 観音山窯趾, 猿川西窯趾, 岩谷川内窯趾	17-18世紀	陶器			出光美術館
I-46・1~12	鍋島染付陶片	大川内窯趾	18世紀	磁器			出光美術館
I-47・1~3	鍋島青磁染付陶片	大川内窯趾	18世紀	磁器			出光美術館
I-48	富嶽三十六景 相州七里濱	葛飾北斎	天保前期(1830-32)	横大判錦絵一枚		西村屋与八(永寿堂)	千葉市美術館 開設準備室
I-49	富嶽三十六景 遠江山中	葛飾北斎	天保前期(1830-32)	横大判錦絵一枚		西村屋与八(永寿堂)	墨田区
I-50	富嶽三十六景 下目黒	葛飾北斎	天保前期(1830-32)	横大判錦絵一枚		西村屋与八(永寿堂)	墨田区
I-51	富嶽三十六景 東都浅草本願寺	葛飾北斎	天保前期(1830-32)	横大判錦絵一枚		西村屋与八(永寿堂)	墨田区
I-52	富嶽三十六景 御厩川岸より两国橋夕陽見	葛飾北斎	天保前期(1830-32)	横大判錦絵一枚		西村屋与八(永寿堂)	墨田区
I-53	諸國瀧廻り 東都葵ヶ岡の滝	葛飾北斎	天保6(1835)	縦大判錦絵一枚		西村屋与八(永寿堂)	墨田区
I-54・1	三曲合奏図(藍摺)	溪斎英泉	天保6(1835)	縦大判錦絵三枚続		蔦屋吉蔵(紅英堂)	国立国会図書館
I-54・2	姿海老屋楼上之図	溪斎英泉	文政11(1828)頃	縦大判錦絵三枚続		蔦屋吉蔵(紅英堂)	千葉市美術館 開設準備室
I-55・1	鯉瀧登り桶襦の花魁(藍摺)	溪斎英泉	天保前期	縦大判錦絵上下二枚継		佐野屋喜兵衛(喜鶴堂)	千葉市美術館 開設準備室
I-55・2	鯉瀧登り桶襦の花魁	溪斎英泉	文政後期	縦大判錦絵上下二枚継		佐野屋喜兵衛(喜鶴堂)	千葉市美術館 開設準備室

No.	作品名	産地・作家名	制作年	素材、技法	寸法 (cm)	版元	所蔵
I-56	藍地松竹梅文衣裳	沖繩	19世紀	型染(紅型), 麻	丈142.0		日本民芸館
I-57	藍地檜扇橘文夜着		19世紀	筒描, 木綿	丈160.0		日本民芸館
I-58	格子縞入・虎・竹に雀文夜具地	広島	19-20世紀	緯緋, 木綿			武蔵野美術大学民俗資料室
I-59	やたら横縞入中入金通し格子縞夜具地	愛知	19-20世紀	木綿			武蔵野美術大学民俗資料室
I-60	縞入・×字流れ矢絰文夜具地	広島	19-20世紀	縦緋, 木綿			武蔵野美術大学民俗資料室
I-61	三藤巴文夜具地	広島	19-20世紀	型染, 木綿			武蔵野美術大学民俗資料室
I-62	唐花唐草文着物地	広島	19-20世紀	型染, 木綿			武蔵野美術大学民俗資料室
I-63	藤亀甲唐花唐草文夜具地	広島	19-20世紀	型染, 木綿			武蔵野美術大学民俗資料室
I-64	組合せ城文に「北京帝国万歳」夜具地	広島	19-20世紀	縦緯緋, 木綿			武蔵野美術大学民俗資料室

No.	作品名	作家名	制作年	素材、技法	寸法 (cm)	所蔵先	Ed.
II部 青の系譜							
●青—光の中の輝き							
II-1	絵になる最初	竹内栖鳳	1913	絹本着色	183.2×87.5	京都市美術館	
II-2	朝顔	土田麦僊	1929	絹本着色	62.0×71.2	京都市美術館	
II-3	青柿	福田平八郎	1938	絹本着色	60.9×88.2	京都市美術館	
II-4	激流	前田青邨	1944	紙本着色	63.5×87.0	東京国立近代美術館	
II-5	窓辺の読書	太田喜二郎	1908-13	油彩, キャンバス	81.3×65.0	京国国立近代美術館	
II-6	初冬の朝	斎藤豊作	1914	油彩, キャンバス	65.0×162.0		
II-7	ボアソニエール	海老原喜之助	1935	油彩, キャンバス	45.4×37.6	宮城県美術館	
II-8	桜島・青	梅原龍三郎	1935	油彩, キャンバス	65.5×80.5	東京国立近代美術館	
●青の心象							
II-9	絶望	秦テルヲ	大正中期	岩彩, キャンバス	60.7×91.0	京国国立近代美術館	
II-10	超現実派の散歩	東郷青児	1929	油彩, キャンバス	65.2×50.0	安田火災東郷青児美術館	
II-11	眠られぬ夜のために	北脇昇	1938	油彩, キャンバス	130.0×162.0	京都市美術館	
II-12	ヴァルコン	岡田謙三	1932	油彩, キャンバス	130.2×81.9	安田火災東郷青児美術館	
II-13	魚の説	中原實	1938	油彩, キャンバス	90.0×131.0	東京都美術館寄託	
II-14	鳥	鏝光	1940	油彩, キャンバス	45.4×37.9	宮城県美術館	
II-15	都会	松本竣介	1940	油彩, 板	119.0×153.0	大原美術館	
II-16	月篋	東山魁夷	1967	紙本着色	115.4×160.6	東京国立近代美術館	
●色の独立—青の調べ							
II-17	壁画のための習作—コールブルー—バー街道	ワシリー・カン ディンスキー	1908	油彩, ボード	33.0×41.0	オリックス・コレクション	
II-18	小さな世界 II	ワシリー・カン ディンスキー	1922	リトグラフ, 紙	35.8×28.0	滋賀県立近代美術館	
II-19	小さな世界 III	ワシリー・カン ディンスキー	1922	リトグラフ, 紙	35.4×28.0	滋賀県立近代美術館	
II-20	水兵	パウル・クレー	1940	糊絵具, 紙	48.3×30.7	オリックス・コレクション	
II-21	ジャズ サーカス	アンリ・マチス	1947	ステンシル, 紙	36.0×55.0	西武百貨店	Ed.30/100
II-22	ジャズ 狼	アンリ・マチス	1947	ステンシル, 紙	42.0×63.5	西武百貨店	Ed.30/100
II-23	ジャズ イカロス	アンリ・マチス	1947	ステンシル, 紙	41.0×58.0	西武百貨店	Ed.30/100
II-24	ジャズ かたち	アンリ・マチス	1947	ステンシル, 紙	41.0×58.0	西武百貨店	Ed.30/100
II-25	ジャズ 礁湖	アンリ・マチス	1947	ステンシル, 紙	40.5×64.0	西武百貨店	Ed.30/100

No.	作品名	作家名	制作年	素材,技法	寸法(cm)	所蔵先	Ed.
II-26	モーツァルトに捧ぐ	ラウル・デュフィ	1951	油彩,キャンバス	89.0×116.0		
II-27	ふたり	マルク・シャガール	1976-77	油彩,キャンバス	116.0×89.0	東京国立近代美術館	
● 広がりゆく青の世界—現代の表現から							
II-28	無題 WC 00956	サム・フランシス	1956	水彩,紙	120.0×163.0	セゾン現代美術館	
II-29	海綿レリーフ(RE)	イブ・クライン	1958	海綿,顔料,合成樹脂,板	80.0×200.0	セゾン現代美術館	
II-30	四フィートの花	アンディ・ウォーホル	1964	シルクスクリーン,キャンバス	122.0×122.0	国立国際美術館	
II-31	無題	バーネット・ニューマン	1966	シルクスクリーン,紙	12.6×124.1	滋賀県立近代美術館	Ed.30/125
II-32	無題	アド・ライナー	1966	シルクスクリーン,紙	30.5×30.5	滋賀県立近代美術館	Ed.43/250
II-33	無題	アド・ライナー	1966	シルクスクリーン,紙	53.2×17.8	滋賀県立近代美術館	Ed.43/250
II-34	無題	アド・ライナー	1966	シルクスクリーン,紙	40.7×25.4	滋賀県立近代美術館	Ed.43/250
II-35	J.S.バッハ CI-LA	ヴィクトル・ヴァザルリ	1973	シルクスクリーン,紙	76.0×62.0	セゾン現代美術館	Ed.139/200
II-36	J.S.バッハ BOM-BOR	ヴィクトル・ヴァザルリ	1973	シルクスクリーン,紙	76.0×62.0	セゾン現代美術館	Ed.139/200
II-37	No.79-180: Sei-tu	ルイ・カーン	1979	油彩,キャンバス	189.7×144.9	国立国際美術館	
II-38	中心に向かう六つのブルー	アラン・グリーン	1983	油彩,キャンバス	225.0×427.0	東京都美術館	
II-39	アンブレラ,日本—アメリカ合衆国	クリスト	1989	ミクスト・メディア	229.0×106.6, 229.0×38.0		
II-40	花	瑛九	1956	油彩,板	52.7×45.5	埼玉県立近代美術館	
II-41	雲	瑛九	1959	油彩,キャンバス	162.2×130.3	埼玉県立近代美術館	
II-42	サークル(青)	オノサトシノブ	1958	油彩,キャンバス	91.0×116.5	東京都美術館	
II-43	作品 4	齋藤義重	1960	油彩,ドリルワーク,板	121.0×181.0	横浜美術館	
II-44	作品 60-1	堂本尚郎	1960	油彩,キャンバス	130.5×193.5	京都市美術館	
II-45	コンポジション	難波田龍起	1965	油彩,エナメル,蠟,キャンバス	182.0×227.0	東京国立近代美術館	
II-46	不思議な国C	難波田龍起	1984	油彩,キャンバス	130.7×162.3	世田谷美術館	
II-47	ダフネ	大沢昌助	1970	油彩,キャンバス	160.5×129.8		
II-48	線より	李禹煥	1973	岩彩,キャンバス	127.0×182.0	東京都美術館	
II-49	風景	小野木学	1975	油彩,キャンバス	132.0×132.0	国立国際美術館	
II-50	教会	鴨居玲	1976	油彩,キャンバス	162.0×130.7	ひろしま美術館	
II-51	観想マンダラ図シリーズ・楕円銀河光	前田常作	1977-79	アクリル,キャンバス	97.0×130.0		
H-52	青波	白髪一雄	1979	油彩,キャンバス	130.5×162.2	埼玉県立近代美術館	
II-53	三本の斜めのストライプ:青81/J-4	近藤竜男	1981	アクリル,キャンバス	118.0×274.0	国立国際美術館	
II-54	蒼天の刻	三尾公三	1982	アクリル,板	161.9×161.9	埼玉県立近代美術館	
II-55	ブルーホライズン '82-A-5	秋山静	1982	木版,紙	49.7×70.0	埼玉県立近代美術館	Ed.25/50
II-56	Work E-256	山田正亮	1986	油彩,キャンバス	193.9×259.1	セゾン現代美術館	
II-57	月光 十三	菊畑茂久馬	1988	油彩,キャンバス	259.5×194.5	東京画廊	
II-58	まなざし—疼く飛沫を連れ 26	加納光於	1989-90	油彩,紙	160.0×110.0		
II-59	Blue Swan in Well—Locus Sutra No.1	井田照一	1990	銅版,紙	45.0×45.0	国立国際美術館	Ed.13/30

No.	作品名	作家名	制作年	素材, 技法	寸法 (cm)	所蔵先	Ed.
II-60	Blue Swan in Well—Locus Sutra No.2	井田照一	1990	銅版, 紙	45.0×45.0	国立国際美術館	Ed.13/30
II-61	Blue Swan in Well—Locus Sutra No.3	井田照一	1990	銅版, 紙	45.0×45.0	国立国際美術館	Ed.13/30
II-62	MIDU WATER	小林健二	1990	ミクスト・メディア	25.5×19.0×8.5		
II-63	土星望遠鏡	小林健二	1991	ミクスト・メディア	18.0×14.0×21.0		

No.	資料名	産地	寸法 (cm)	所蔵先
●資料(青の色材ほか)				
1	青めのう(碧玉)原石	島根県八束郡玉湯村	長10.0	国學院大學考古學資料館
2	ひすい(硬玉)原石	新潟県小滝村	長35.0	国學院大學考古學資料館
3,4	ラピスラズリ原石	アフガニスタン	長10.0, 15.0	平塚市美術館ほか
5	天然ウルトラマリンブルー			
6	アズライト原石		長15.0	ナカガワ胡粉 平塚市美術館
7	天然岩群青			ナカガワ胡粉
8	アマゾナイト原石			平塚市美術館
9	ソーダライト原石			平塚市美術館
10	タークオイズ原石			平塚市美術館
11	藍玉・すくも(天然藍)			藍の館
12	呉須(コバルト顔料)			
13	絵画材料見本			目黒区美術館
14	ブルシャンブルー, フタロシアニンブルー他			カラー・プランニング・センター

目黒区美術館開館5周年記念 ロシアのころ・イコン展

会期：1992(平成4)年10月17日-12月6日

会場：展示室A・B・C, 展示ロビー, ワークショップ, エントランスホール

主催：目黒区美術館/目黒区/目黒区教育委員会/毎日新聞

後援：ロシア連邦大使館/外務省/文化庁

特別協賛：千代田生命

担当学芸員：矢内みどり, 家村珠代

モスクワ市内の古い教会跡にグラバリー美術科学修復センターと呼ばれる研究所が建てられた。このロシア連邦の国立の古文化財修復研究所が修復を手がけた、13世紀以来の貴重なイコン(聖像画)計99点を日本で初公開した。修復の過程が良くわかるイコンの展示もし、歴史の秘密的展開にもふれられるよう試みた。また、帝政末期のロシアにわたってイコンを学び、帰国後、東京のニコライ聖堂をはじめとしてイコンを描きつづけた女性画家、山下りん(1857-1939)の作品12点をあわせて展示し、ロシアと日本の交流にも光をあてた。

●カタログ

寸法：29.8×22.0cm

ページ数：150頁

表紙デザイン：矢萩喜従郎

内容：ごあいさつ(主催者)／「ロシアのころ・イコン展」の主催者および来訪者の皆さんへ(ロシア連邦大統領 ポリス・エリツィン)／メッセージ(I.E.グラバリー記念全ロシア美術科学修復センター所長 アレクセイ・ペトロヴィチ・ウラジミロフ)／図版／解説／イコンの美(宗左近)／邪宗門徒の不逞な“イコーナ”イメージ(内村剛介)／I.E.グラバリーを讀んで(濱田靖子)／キリスト教美術の本流(高橋保行)／山下りん-黒い瞳の聖処女たちの系譜-(矢内みどり)／覚書き・イコン展実現まで-クロニクル風-(定村忠士)／作品解説にあたって[(A.N.オウチニコフ, M.S.トルバチョヴァ, E.V.ログヴィノフ)]／作品解説：同上(翻訳監修：濱田靖子, 訳：塚本善也, 富田知佐子, 執筆：矢内みどり)／ロシア・イコン関係地図(濱田靖子)／用語解説, イコンの材質と制作法, イコノスタシス(聖障)／ロシア・イコン関係文献一覧／山下りん主要文献

●ポスター サイズ：B1, B3 /デザイン：矢萩喜従郎

●チラシ サイズ：A3二つ折(A4・4ページ) /デザイン：矢萩喜従郎

●主要関連記事

「特集 ロシアのころ・イコン展」毎日新聞 1992年10月14日

“Icons reveal Russia’s religious heart” Yvonne Chang, The Japan Times. Nov. 8, 1992

「読まれるべき美について」 亀津奈穂子 ブルータス 1992年12月1日

「〈ロシアのころ・イコン展〉イコンのなかに聞きたる〈無名性〉のつぶやき」 園田恵子 別冊太陽 1992年12月



B2ポスター



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	素材、技法	寸法	所蔵先
1	アトス	「オディギトリアの聖母」	13世紀	板、下塗り、テンペラ	122.0×86.0	リヤザン建築美術史博物館
2	ビザンティン	「全能者・キリスト」	14世紀	板、下塗り、テンペラ	22.1×17.2	ブスコフ建築美術史博物館
3	ノヴゴロド派	「聖ヨハネ・クリゾストムス」	15世紀	板、下塗り、テンペラ	68.5×59.5	アルハンゲリスク美術館
4	ノヴゴロド派	「王門の左扉」	15世紀末— 16世紀初頭	板、下塗り、テンペラ	103.3×41.0	チェレボヴェーツ美術館連合
5	ブスコフ派	「“しるし”の聖母と選ばれた聖者たち」	15世紀	板、下塗り、テンペラ	69.5×52.0	ブスコフ建築美術史博物館
6	ブスコフ派	「救世主」(半身像)	15世紀	板、下塗り、テンペラ	19.7×10.7	ブスコフ建築美術史博物館
7	ブスコフ派	「オディギトリアの聖母」	15世紀	板、下塗り、テンペラ	24.1×18.1	ブスコフ建築美術史博物館
8	ブスコフ派	「聖母」(半身像 デイシスよ)	15世紀	板、下塗り、テンペラ	14.0×12.5	ブスコフ建築美術史博物館
9	ブスコフ派	「聖母」(半身像 デイシスよ)	15世紀	板、下塗り、テンペラ	22.3×17.2	ブスコフ建築美術史博物館
10	ブスコフ派	「聖ニコラウス」	15世紀	板、下塗り、テンペラ	20.2×15.2	ブスコフ建築美術史博物館
11	ブスコフ派	「聖ニコラウス」	15世紀	板、下塗り、テンペラ	21.0×13.0	ブスコフ建築美術史博物館
12	ブスコフ派	「聖コスマスと聖ダミアヌス」	15世紀	板、下塗り、テンペラ	22.6×15.0	ブスコフ建築美術史博物館
13	ブスコフ派	「大天使ミカエルと聖大バジリウス」	15世紀	板、下塗り、テンペラ	22.1×7.8	ブスコフ建築美術史博物館
14	ブスコフ派	「聖母とキリストの変容」(主の変容祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	123.0×34.0	ブスコフ建築美術史博物館
15	ブスコフ派	「授洗者聖ヨハネとキリストの磔刑」(十字架挙崇祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	123.0×35.0	ブスコフ建築美術史博物館
16	ブスコフ派	「大天使ミカエルとキリストの洗礼」(神現祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	125.0×36.0	ブスコフ建築美術史博物館
17	ブスコフ派	「大天使ガブリエルと冥府に降るキリスト」(復活祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	126.0×36.0	ブスコフ建築美術史博物館
18	ブスコフ派	「使徒聖ペテロと幼子イエスの神殿奉獻」(迎接祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	123.0×35.0	ブスコフ建築美術史博物館
19	ブスコフ派	「使徒聖パウロとキリストの昇天」(昇天祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	124.0×36.0	ブスコフ建築美術史博物館
20	ブスコフ派	「聖ヨハネ・クリゾストムスとキリストの降誕」(降誕祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	124.0×35.0	ブスコフ建築美術史博物館
21	ブスコフ派	「聖ゲオルギウスと受胎告知」(生神女福音祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	125.0×36.0	ブスコフ建築美術史博物館
22	ブスコフ派	「聖ディミトリウスと聖母の眠り」(生神女就寝祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	126.0×35.0	ブスコフ建築美術史博物館
23	ブスコフ派	「聖ニコラウスと聖三位一体」(聖神降臨祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	125.0×36.0	ブスコフ建築美術史博物館
24	ブスコフ派	「聖サッバスと聖母マリアの誕生」(生神女誕生祭) イコノスタシスのイコン——デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板、下塗り、テンペラ	123.0×39.0	ブスコフ建築美術史博物館

No.	作家名	作品名	制作年	素材,技法	寸法	所蔵先
25	ブスコフ派	「聖エウフェミアと聖母マリアの神殿奉獻」(生神女進堂祭) イコスタシスのイコン—— デイシスと聖大祭の段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	125.0×38.0	ブスコフ建築美術史博物館
26	ブスコフ派	「王門」受胎告知,聖大バジリウス,聖ヨハネ・クリゾストムス	16世紀	板,下塗り,テンペラ	147.0×44.0 147.0×44.0	ブスコフ建築美術史博物館
27	ブスコフ派	「聖母の眠り」	16世紀	板,下塗り,テンペラ	77.0×53.0	ブスコフ建築美術史博物館
28	ブスコフ派	「聖母マリアの誕生」	16世紀	板,下塗り,テンペラ	79.0×57.0	ブスコフ建築美術史博物館
29	ブスコフ派	「聖母のイコンを描く使徒聖ルカ」	16世紀中頃	板,下塗り,テンペラ	89.0×65.0	ブスコフ建築美術史博物館
30	ブスコフ派	「選ばれた聖者たち」 聖公ポリース,キレニアの聖テオドトス,マグダラの聖女マリア,聖女クセニア	1589年頃	板,下塗り,テンペラ	73.0×64.0	ブスコフ建築美術史博物館
31	中部ロシア(ロストフ)	ザライスクの聖ニコラウス	16世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	45.6×32.8	アルハンゲリスク美術館
32	ヴォログダ	「栄光の中のキリスト」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	87.0×69.0	チェレボヴェーツ美術館連合
33	ヴォログダ	「聖母」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	86.6×35.6	チェレボヴェーツ美術館連合
34	ヴォログダ	「授洗者聖ヨハネ」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	86.6×41.0	チェレボヴェーツ美術館連合
35	ヴォログダ	「大天使ミカエル」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	87.0×41.0	チェレボヴェーツ美術館連合
36	ヴォログダ	「大天使ガブリエル」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	86.0×38.0	チェレボヴェーツ美術館連合
37	ヴォログダ	「使徒聖ペテロ」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	85.5×36.2	チェレボヴェーツ美術館連合
38	ヴォログダ	「使徒聖パウロ」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	86.6×36.0	チェレボヴェーツ美術館連合
39	ヴォログダ	「聖大バジリウス」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	85.5×38.9	チェレボヴェーツ美術館連合
40	ヴォログダ	「聖ニコラウス」 イコスタシスのイコン—— デイシスの段より	16世紀	板,下塗り,テンペラ	86.7×38.1	チェレボヴェーツ美術館連合
41	ヴォログダ地方	「聖母に祝福される使徒聖ペテロと使徒聖パウロ」	16世紀	板,下塗り,テンペラ	60.0×46.0	チェレボヴェーツ美術館連合
42		「王門」受胎告知 四福音書記者	16世紀末— 17世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	163.5×36.0(各)	アルハンゲリスク美術館
43	ソリヴィチェゴツク	「北門」(上段)天のエルサレム,(中段)人間の創造と天国からの追放,(下段)ザカリヤの受難	16世紀	板,下塗り,テンペラ	202.5×88.5	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
44		「府主教聖アレクシーとその伝記」	16世紀末	板,下塗り,テンペラ	116.5×80.0	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
45	ソリヴィチェゴツク	「ウラジーミルの聖母と聖大祭」	16世紀末		106.0×71.0	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
46	ストローガノフの画家	「“人の手によらず切り出された岩山”の聖母」(聖母に頼らず 聖ニケータスと聖エウブラクシア)	16世紀末— 17世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	143.0×96.5	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
47	ソリヴィチェゴツク	「聖母子に祝福される聖ワシーリー・ブラジェンスイ」	16世紀末	板,下塗り,テンペラ	107.5×27.3	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
48		「聖母子に祝福されるウスチュークの聖プロコペー」	16世紀末	板,下塗り,テンペラ	107.4×36.0	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
49		「王門」(上部) (上段左右) 聖体拝領,(上段中央)聖三位一体,(下段)聖ニケータス,聖女エウブラクシア,天使	16世紀末	板,下塗り,テンペラ	89.0×111.3	ソリヴィチェゴツク美術史博物館

No.	作家名	作品名	制作年	素材,技法	寸法	所蔵先
50		「旧約の聖三位一体」	16世紀末— (17世紀初頭)	板,下塗り,テンペラ,縁に打出し装飾	142.3×63.8	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
51	ストローガノフ派の画家	「フョードルの聖母」	17世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	59.5×46.8	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
52	ソリヴィチェゴツク	「“人の手によらず切り出された岩山”の聖母」	17世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	143.0×54.2	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
53	ソリヴィチェゴツク	「聖母子に祝福される聖戦士ニケータス」	17世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	142.0×39.5	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
54		「聖ニコラウスとその伝記」	16世紀中期 (生涯図部分は1607年頃)	板,下塗り,テンペラ	127.0×99.5	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
55	ソリヴィチェゴツク	「神殿の清め(甦ったエルサレムの復活聖堂)」	16世紀末— 17世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	195.0×59.2	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
56	ソリヴィチェゴツク	「祝福される聖ヨハネ・クリマコスと聖戦士サツパス」	17世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	135.0×99.5	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
57	ナザリー・イストミン・サヴィン	「デミートリー王子」	1621—1622年	板,下塗り,テンペラ,銀に打出し(ノスマー)	153.0×77.8	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
58	ボスニク・デルビン	「諸聖人をともなったデイス」	16世紀後期	板,下塗り,テンペラ	36.0×29.7	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
59	イストマ・エリザエロフ	「ウラジーミルの聖母」	17世紀第1四半期	板,下塗り,テンペラ	34.5×28.5	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
60	ボグダン・ソボレフ	「玉座の聖母子」	1609年	板,下塗り,テンペラ	142.4×70.5	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
61		「聖母子に祝福されるロストフの聖イシドール」	17世紀第1四半期	板,下塗り,テンペラ	141.5×44.7	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
62		「“燃えつきることなき柴”の聖母」	1604/1605年	板,下塗り,テンペラ	144.0×111.0	エカテリンブルグ絵画館
63		「シケオナの聖テオドロスとその伝記」	17世紀末	板,下塗り,テンペラ	61.0×49.0	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
64	北方派	「預言者エリヤの昇天」	16世紀	板,下塗り,テンペラ	99.8×80.4	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
65	ヴェリーキー・ウスチュエグ	「諸聖人像を伴うキリストの復活」	1571年	板,下塗り,テンペラ	76.0×56.5	ヴェリーキー・ウスチュエグ建築史博物館
66		「王門」受胎告知,福音書記者とその弟子(聖マタイとヤコブ,聖マルコとペテロ,聖ヨハネとブローホル,聖ルカとテルピオ)	17世紀	板,下塗り,テンペラ	161.5×33.0 (左扉) 160.0×31.5 (右扉)	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
67		「使徒聖アンデレ」	1661年以前	板,下塗り,テンペラ	31.0×26.0	ソリヴィチェゴツク美術史博物館
68		「ローマの聖アントニウス」	17世紀	板,下塗り,テンペラ	31.3×25.7	国立宗教史博物館(サンクト=ペテルブルグ)
69		「聖ゲオルギウスの龍退治」	17世紀末— 18世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	77.5×61.2	チェレポヴェーツ美術館連合
70	ギリシャ様式	「聖ゲオルギウスの龍退治」	1635年	板,下塗り,テンペラ	53.5×42.4	国立宗教史博物館(サンクト=ペテルブルグ)
71		「栄光の中のキリスト」	17世紀	板,下塗り,テンペラ	114.0×100.2	アルハンゲリ斯克美術館
72	北方派	「ラザロの復活」	16世紀末— 17世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	55.3×35.0	スモレンスク建築美術史博物館
73		「イヴェリヤの聖母とその伝説」	17世紀末— 18世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	121.6×95.8	アルハンゲリ斯克美術館
74	北方派	「聖パラスケワ・ピャートニツァ」	18世紀	板,下塗り,テンペラ	135.0×82.0	チェレポヴェーツ美術館連合
75		「ソロヴェツキーの聖ゾシマと聖サワツィー」	18世紀	板,下塗り,テンペラ	102.5×76.5	アルハンゲリ斯克美術館
76		「“癒し”の聖母」	1773年	板,下塗り,テンペラ	35.7×30.7	アルハンゲリ斯克美術館
77		「聖ヨハネ・クリマコスの幻視」	18世紀	板,下塗り,テンペラ	84.0×48.5	アルハンゲリ斯克美術館
78	チホン・フィラチエフ	「祝福される四人の聖者」シリアの聖エフレム,聖アンティピウス,聖アルセニウス,聖マルケルス	1712年	板,下塗り,テンペラ	31.8×26.8	国立宗教史博物館(サンクト=ペテルブルグ)
79		「聖大バジリウス」	18世紀	板,下塗り,テンペラ	75.5×52.0	チェレポヴェーツ美術館連合
80		「聖母マリアの誕生」	18世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	107.0×77.0	チェレポヴェーツ美術館連合
81		「新約の聖三位一体」	18世紀	板,下塗り,テンペラ	47.7×37.5	トウーラ美術館
82		「キリストの磔刑」	18世紀末	板,下塗り,テンペラ	45.0×35.3	アルハンゲリ斯克美術館
83	パレフ	「モジャイスクの聖ニコラウス」	18世紀—19世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	31.0×27.0	チェレポヴェーツ美術館連合
84		「チフビンの聖母と奇蹟物語」	18世紀末— 19世紀初頭	板,下塗り,テンペラ	44.5×34.0×3.4 (オクラウの厚み)	コストロマ博物館
85		「聖行列用十字架」	1908—1910年	板,下塗り,テンペラ	198.0×93.5	I.E.グラバリー記念全ロシア美術科学修復センター

No.	作家名	作品名	制作年	素材,技法	寸法	所蔵先
86		「“燃えつきることなき柴”の聖母と聖大祭」	17世紀	板,下塗り,テンペラ	114.0×93.3	アルハンゲリ斯克美術館
87		「授洗者聖ヨハネとその伝記」	1703年	板,下塗り,テンペラ	89.0×68.3	トヴェーリ絵画館
88	ブスコフ派	「使徒聖トマス(イコノスタシス)」 デイシスの段より	15世紀末	板,下塗り,テンペラ	157.8×68.0	ブスコフ建築美術史博物館
89	モスクワ,サンクト=ペテルブルグ	「“しるし”の聖母と聖者たち」 聖ゲオルギウス,聖ヤコブ・ベルシツキー,聖オヌーフリー・ペリーキー,聖マカーリー・リムスキー	19世紀初頭 (イコン) 19世紀初頭 (オクラッド) 19世紀初頭 (光輪)	板,下塗り,テンペラ,鍍銀,真珠,宝玉,ガラス	60.0×53.5	モスクワ歴史博物館
90	A.N.オヴチニコフ	「聖ニコラウス」(聖堂北側アーチ) (スターラヤ・ラドガの)聖ゲオルギウス聖堂・12世紀の壁画より模写	1960年代	厚紙,下塗り,テンペラ	183.0×142.0	
91	A.N.オヴチニコフ	「殉教聖女マリア」(聖堂南側アーチ) (スターラヤ・ラドガの)聖ゲオルギウス聖堂・12世紀の壁画より模写	1960年代	厚紙,下塗り,テンペラ	180.0×142.0	
92	A.N.オヴチニコフ	「聖戦士サッバス」(ディアコニコンのアーチ) (スターラヤ・ラドガの)聖ゲオルギウス聖堂・12世紀の壁画より模写	1960年代	厚紙,下塗り,テンペラ	163.0×82.0	
93	A.N.オヴチニコフ	「聖エウスタティウス・ブラキダ」(ディアコニコンのアーチ) (スターラヤ・ラドガの)聖ゲオルギウス聖堂・12世紀の壁画より模写	1960年代	厚紙,下塗り,テンペラ	163.0×82.0	
94		「モジャイスクの聖ニコラウス」	17世紀末-18世紀初頭	木,彫刻,彩色,銀	79.0×59.0×12.0	アルハンゲリ斯克美術館
95		「王門(最後の晩餐)」	18世紀	木,彫刻,彩色,鍍金,銀装	195.0×103.0×10.0	リヤザン美術館
96		「モジャイスクの聖ニコラウス」	16-17世紀	木,彩色,彫刻	166.0×108.0×16.0	カルゴーポリ郷土史博物館
97		「牢獄のキリスト」		木,彫刻,テンペラ	92.0×40.0×20.0	シュエーセ記念科学博物館
98		「十字架のキリスト(礼拝用十字架)」	17世紀	木,彫刻,彩色	297.0×192.5×13.8	パレフ美術館
99		「救世主」	19世紀	ガラス・モザイク	27.0×25.5	ムラノヴォ博物館
100	山下りん	「聖母子像」	1901年	油彩,板	15.2×12.0	笠間日動美術館寄託
101	山下りん	「至聖生神女ノ誕生」(聖母マリアの誕生) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.4×25.1	福島ハリストス正教会
102	山下りん	「至聖生神女ノ進堂」(聖母マリアの神殿奉獻) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.5×25.0	福島ハリストス正教会
103	山下りん	「至聖生神女ノ福音」(受胎告知) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.5×25.0	福島ハリストス正教会
104	山下りん	「ハリストスノ降誕」(キリスト降誕) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.7×25.0	福島ハリストス正教会
105	山下りん	「主ノ迎接」(幼子イエスの神殿奉獻) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.6×25.1	福島ハリストス正教会
106	山下りん	「主ノ洗礼」(キリストの洗礼) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.5×25.1	福島ハリストス正教会
107	山下りん	「主ノ顕栄」(キリストの変容) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.5×25.1	福島ハリストス正教会
108	山下りん	「主ノ入城」(エルサレム入城) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.7×25.0	福島ハリストス正教会
109	山下りん	「聖神降臨」(至聖三者の主日) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.5×24.9	福島ハリストス正教会
110	山下りん	「至聖生神女ノ寝」(聖母の眠り) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.6×25.0	福島ハリストス正教会
111	山下りん	「聖架ノ挙栄」(十字架の発見) 「十二大祭図」より		油彩,カンヴァス	30.5×25.0	福島ハリストス正教会

美術が2倍半位わかりそう逆入門展

会期：1992(平成4)年12月18日－1993(平成5)年1月17日

会場：展示室A・B・C，展示ロビー

主催：目黒区美術館

担当学芸員：正木 基，家村珠代

いわゆる所蔵作品展を，収集のコンテクストに沿って並べるだけではなく，そこにもうひとつ別の文脈を加味して展覧会を組み立てた。具体的には，当美術館の近代日本美術と西洋の関係に着眼した収集方針の具現ばかりでなく，併せて美術の初心者の鑑賞者層のための鑑賞入門展にすることにして，惰性的な所蔵作品展からの脱却をはかろうとした。しかも，旧来の鑑賞入門展の方法では，作品を理解する力を育成するのではなく，単に作品を理解したような心持ちにさせているだけなのではないかという疑問を発することにした。そのために言葉による作品解説を極力避け，作品理解の手掛かりとしては，作品理解のポイントとなるさまざまな造型的なヒントを作品のそばに提示するにとどめ，鑑賞者が自身の目で積極的に作品と対話できるように配慮した。ただ，作品の鑑賞は必ずしも一様ではなく，さまざまな解釈が可能なため，鑑賞者自身が作品を前にしての想念を第一義とし，いわゆる回答は付さなかった。が，作品を前にして何も喚起されなかったという鑑賞者のために，美術館出口に美術Q&Aツリーを設置してそこに質問を記していただき，それらにひとつひとつ郵送等で回答するよう配慮した。その結果は，大方から好評いただき，展覧会期末には来館者が急増，総入館者数は，これまでの所蔵品展と比べ，タイトルと同じく約2倍半位に増加した。

●カタログ

本展覧会の出品作と同内容の所蔵作品選を，本展開催にあわせて刊行した。詳細は「刊行」の欄(P.49)を参照。

●ポスター

サイズ：B3

住川忠夫展と同一ポスター

デザイン：印象社(チラシと共通)

●チラシ

サイズ：B4二つ折(B5・4ページ)

住川忠夫展と同一チラシ

●主要関連記事

「〈美術が2倍半わかる〉目黒のおかしな展覧会」 無署名 週刊新潮 1993年1月7日

「美術鑑賞へのアプローチ」 無署名 月刊ギャラリー 第93号 1993年1月

「'70年代日本の前衛展」 堀浩哉 海燕 1993年3月号

「〈美術が2倍半位わかりそう逆入門展〉の方法」 編集部 DOME 1993年4月 第6号



B3ポスター



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	素材,技法	寸法(cm)	制作年
1	安井曾太郎	パリの公園	油彩,キャンバス	33.2×41.0	1911
2	鹿子木孟郎	アヴニュー・オッシュュ	油彩,キャンバス	50.1×61.0	1916-17
3	岡鹿之助	信号台	油彩,キャンバス	45.7×53.2	1926
4	児島善三郎	フランス風景	油彩,キャンバス	65.3×80.4	1927
5	中村義夫	ブルターニュの女	油彩,キャンバス	146.2×97.0	1921-26頃
6	中村義夫	ブルターニュの女 A	パステル,紙	62.8×48.0	1924
7	中村義夫	木炭素描(15)	木炭,紙	64.0×48.6	
8	中村義夫	ブルターニュの女 B	パステル,紙	63.6×47.8	1924
9	中村義夫	ブルターニュの女(下絵)	油彩,板	27.0×22.0	1923
10	中村義夫	木炭素描(13)	木炭,紙	62.3×48.2	
11	中村義夫	木炭素描(16)	木炭,紙	62.0×47.5	
12	中村義夫	木炭素描(14)	木炭,紙	64.0×48.0	
13	中村義夫	木炭素描(17)	木炭,紙	62.1×48.2	
14	——	筆,パレット,パスポート (中村義夫遺品)			
15	——	トランク(中村義夫遺品)		大57.0×103.0×39.5 小42.8×65.0×24.3	
16	——	トランク(藤田嗣治遺品)		40.0×65.0×22.5	
17	藤田嗣治	メキシコの少年	水彩,紙	93.5×61.0	1933
18	高島達四郎	少年背帽	油彩,キャンバス	116.9×72.9	1927
19	藤田嗣治	動物群	油彩,キャンバス	97.0×145.5	1924
20	海老原喜之助	蹄	油彩,キャンバス	111.2×144.7	1936
21	田中 保	金髪の裸婦	油彩,キャンバス	88.5×91.2	1920-30頃
22	里見勝蔵	女	油彩,キャンバス	80.3×116.7	1930
23	坂田一男	浴室の二人の女	油彩,キャンバス	100.1×81.0	1928
24	山尾薫明	夜のノートル・ダム	油彩,キャンバス	81.1×53.1	1933
25	猪熊弦一郎	ノートル・ダム	油彩,キャンバス	81.2×54.3	1938-39
26	松原直子	シャルトルの印象	木版,紙,パネル貼	74.0×55.0	1963
27	矢橋六郎	アルルカン	油彩,キャンバス	92.2×65.5	1933
28	矢橋六郎	ボンヌフ	油彩,キャンバス	80.4×100.0	1931
29	山口 薫	少女	油彩,キャンバス	91.2×72.5	1930-33
30	山口 薫	パリ,アレジアの教会	油彩,キャンバス	61.0×72.0	1932
31	村井正誠	ゴルジュ・ドルー	油彩,キャンバス	80.4×100.4	1928
32	村井正誠	アラブの店	油彩,キャンバス	100.2×80.7	1929
33	国吉康雄	風景	油彩,キャンバス	50.8×76.5	1929
34	野田英夫	車中の少女	油彩,パーティクルボード	37.4×35.4	1932
35	石垣栄太郎	裸婦素描	コンテ,紙	48.0×60.5	1920-50頃
36	北川民次	女	油彩,パーティクルボード	61.9×45.7	1935
37	清水登之	肉屋	油彩,キャンバス	80.0×65.2	1926
38	長谷川三郎	聖母子(裏「ピエタ」)	油彩,キャンバス	226.0×182.0	1948
39	作者不明	ピエタ(表「聖母子」)	油彩,キャンバス	226.1×182.0	
40	岡田謙三	5人	油彩,キャンバス	202.2×319.2	1949
41	安原喜明	五人の少女(5点一組)	陶土,白泥	径11.0~14.0 高50.0~51.0	1962
42	宮田武彦	柿の木坂風景	油彩,キャンバス	39.5×51.0	1947
43	赤穴 宏	目黒駅	油彩,キャンバス	60.5×72.5	1950
44	飯田善國	目黒川夜景	油彩,キャンバス	53.0×68.4	1953-55
45	平賀亀祐	牡蠣のある静物	油彩,キャンバス	46.0×55.0	1928
46	古茂田守介	なす	油彩,キャンバス	32.0×41.0	1959
47	武内鶴之助	雪道	油彩,ガラス	9.1×11.8	1908-12
48	武内鶴之助	雲(7)	パステル,紙	20.5×30.1	1908-12
49	山中信夫	マンハッタン太陽(8)	ピンホール写真,紙	20.4×25.4	1980
50	山中信夫	マンハッタン太陽(9)	ピンホール写真,紙	20.4×25.4	1980
51	巖 嘯	レインボー・エンパイラメント	油彩,キャンバス	177.0×522.0	1962

No.	作家名	作品名	素材,技法	寸法(cm)	制作年
52	堀 浩哉	嵐の声-14	アクリル,岩絵具,墨, キャンバス,和紙	227.3×546.0	1989
53	高木由利子	イジューと鏡,ポートベロー通り'88	ゼラチン,シルバープリント	43.7×35.3	1988
54	高島野十郎	百合とヴァイオリン	油彩,キャンバス	41.1×53.2	大正時代
55	今井俊満	黒い太陽	油彩,キャンバス	60.1×92.3	1956
56	浅野弥衛	無題	油彩,キャンバス	72.7×90.9	1966
57	飯田善國	コスモス-ホワイト	木,塗料	150.6×150.2×6.1	1964
58	磯辺行久	作品 65-41	ミクスト・メディア	124.0×122.0	1965
59	草間彌生	鏡の部屋-愛は永遠に(No.3)	布,綿,塗料,木,鏡,電球他	75.0×75.0×170.0	1964
60	工藤哲巳	記憶の独立	木,プラスチック,糸,接着 剤,塗料	68.6×50.0×11.0	1980
61	岩井俊雄	時間層 II	鉄骨,木製円盤,モーター, ディスプレイ他	120.0×120.0×200.0	1985 寄託
62	松村泰三	スペース・サイクロイド	鉄,アルミ,モーター,LED, コンピューター	110.0×110.0×80.0	1987 寄託
63	矢萩喜徳郎	ストリート,銀座1~8	スチール,アクリル板,布	80.0×600.0×120.0	1984
64	宇佐美圭司	ゴースト・プラン・イン・プロセス I-IV	アクリル,木	204.0×208.0×68.5/ 240.0×208.5×88.0/ 180.0×156.5×65.0/ 180.0×156.5×64.5	1972
65	宇佐美圭司	プロフィールのこだま:積層	アクリル,キャンバス	214.0×196.0	1976
66	宇佐美圭司	版画集 顔(7点)	シルクスクリーン,紙	74.5×55.3	1973-74
67	磯辺行久	嵐シリーズ	シルクスクリーン,カラー ジュ,糸	187.0×91.0	1963-64寄託
68	矢柳 剛	愛の動物誌 2(10点の内)	セリグラフ,紙	73.0×49.3	1973
69	下村良之介	鳥たちの壁 B	紙粘土,顔料,紙	182.0×268.8	1964 寄託
70	浜口陽三	パリの屋根	カラーメゾチント,紙	14.8×19.9	1956
71	長谷川 潔	コップのダリア	メゾチント,紙	23.8×18.7	1930
72	駒井哲郎	夜の中の女	インタリオ,紙	23.7×18.3	1951
73	浜田知明	地方名士	エッチング,アクアチント,イ ンク:黒,アルシュ紙	36.1×13.0	1958 寄託
74	山本 鼎	フランス風景	エッチング,紙	18.0×13.0	1913頃
75	国吉康雄	ベッドに横たわる裸婦	エッチング,紙	5.9×10.2	1916-17
76	国吉康雄	足をつかむ右向きの裸婦	エッチング,紙	7.6×10.2	1916-17
77	池田満寿夫	子供の中の風景	ドライポイント,紙	36.5×35.5	1962
78	駒井哲郎	魚または毒	エッチング,紙	25.9×35.9	1962
79	日和崎尊夫	卵(8点の内)	木口木版,紙	41.5×68.0	1970
80	木原康行	死 II(死と転生10点の内)	銅版,紙	46.8×38.0	1977
81	清原啓子	孤島	エッチング,紙	36.3×34.2	1987

孤高の画家—巴里に死す・住川忠夫展

会期：1992(平成4)年12月18日－1993(平成5)年1月17日

会場：ワークショップ，エントランスホール

主催：目黒区美術館

担当学芸員：正木 基

1936(昭和11)年、目黒に生まれ、1967(昭和42)年に渡仏し、彼の地で1987(昭和62)年に亡くなった住川忠夫の遺作展。没後、遺族がパリから持ち帰ることが出来た作品が、当美術館に寄贈されたことから、今回所蔵作品展として開催された。彼の作家歴からいうならば、遺された作品(遺族がパリで見つけて持ち帰った作品)は決して多くはなく、また彼の渡仏期の全軌跡を回顧するにも不十分であった。が、幸い彼が絵画における線と面との派生あるいは溶解の関係、言い換えるなら地と図との造形的関係を作品化したもっとも成果の实った時期の作品が持ち帰られ、その点での彼の仕事の再評価を図ることができた。日本での本格的な発表を持たなかった未知の作家だが、彼の「絵画とは、空間とは」の真摯な問いかけは、絵心ある人々の理解を得たように思う。

●パンフレット

寸法：29.6×21.0cm

ページ数：8頁

デザイン：印象社(ポスター，チラシ共通)

内容：住川忠夫とPOUR AGON(渡辺啓助)／図版／'84

年，パリ(堀浩哉)／略年譜／主要文献

●ポスター

サイズ：B3

「美術が2倍半位わかりそう逆入門展」と同一ポスター

●チラシ

サイズ：B4二つ折(B5・4ページ)

「美術が2倍半位わかりそう逆入門展」と同一チラシ

出品目録

No.	作品名	制作年	素材・技法	寸法	所蔵先
1	アーゴンのために	1971	アクリル，キャンバス	80.5×116.6	目黒区美術館
2	アーゴン—イゴール・ストラヴィンスキー讃(レッド)	1972	セリグラフ	48.5×63.2	目黒区美術館
3	アーゴン—イゴール・ストラヴィンスキー讃(グリーン)	1972	セリグラフ	50.0×65.0	目黒区美術館
4	空間の華	1972	アクリル，紙	30.5×18.0	目黒区美術館
5	花粉の熱気	1972	セリグラフ	65.0×49.8	目黒区美術館
6	線形成 I	1974	アクリル，キャンバス	32.0×180.0	目黒区美術館
7	線形成 II	1974	アクリル，キャンバス	32.0×180.0	目黒区美術館
8	線形成 III	1974	アクリル，キャンバス	32.0×180.0	目黒区美術館
9	線形成(三点によるヴァリエーション)(両面)	1974	写真コラージュ	36.7×52.0	目黒区美術館
10	空間的現象	1976	アクリル，キャンバス	200.0×114.0	目黒区美術館
11	線形成のために I～VII	1980	水彩，紙	各45.5×14.0	目黒区美術館
12	線形成のために(七点によるヴァリエーション)(両面)	1980	写真コラージュ	36.7×52.0	目黒区美術館
13	一本の線と七本の線	1981	セリグラフ	50.0×48.9	目黒区美術館
14	五本の線のために(ブルー)	1982	セリグラフ	54.0×48.9	目黒区美術館
15	五本の線のために(ワインレッド)	1982	セリグラフ	54.0×48.9	目黒区美術館
16	五本の線のために(グレー)	1982	セリグラフ	54.0×48.9	目黒区美術館

No.	作品名	制作年	素材・技法	寸法	所蔵先
17	三つの正方形 A	1982頃	アクリル, キャンバス	110.0×110.0	目黒区美術館
18	三つの正方形 B	1982頃	アクリル, キャンバス	110.0×110.0	目黒区美術館
19	三つの正方形 C	1982頃	アクリル, キャンバス	110.0×110.0	目黒区美術館
20	三つの正方形 D	1982頃	アクリル, キャンバス	110.0×110.0	目黒区美術館
21	三つの正方形 E	1982頃	アクリル, キャンバス	110.0×110.0	目黒区美術館
22	三つの正方形 F	1982頃	アクリル, キャンバス	110.0×110.0	目黒区美術館
23	三つの正方形 G	1982頃	アクリル, キャンバス	110.0×110.0	目黒区美術館
24	三つの正方形 H	1982頃	アクリル, キャンバス	110.0×110.0	目黒区美術館
25	三つの正方形(八点によるヴァリエーション)(両面)	1982	写真コラージュ	36.7×52.0	目黒区美術館

めぐろの子どもたち展

平成4年度目黒区立幼稚園、小・中学校連合展覧会

会期：1993(平成5)年1月23日～2月7日

会場：展示室A・B・C、展示ロビー、ワークショップ、エントランスホール

主催：目黒区立幼稚園長会、同小学校長会、同中学校長会、同心身障害学級設置校長会、目黒区教育会、目黒区美術館、目黒区教育委員会

目黒区内の幼稚園、小学校、中学校、心身障害学級の児童・生徒が4年度に各学級で制作した作品を一堂に展示、区民の方々に広く供し、目黒区の美術・情操教育の現況について一層のご理解とご協力を賜ることを目的として開催したものである。児童・生徒の生き生きとした造形に対する感性ばかりでなく、実際の指導に当たられている教師の方々の日頃の実践の成果の披露でもある。

●パンフレット

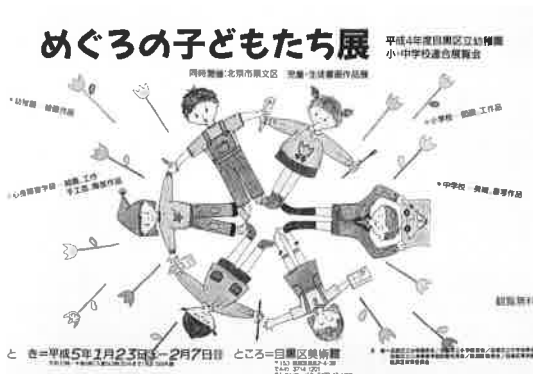
寸法：A3 縦長四つ折

ページ数：8頁

内容：ごあいさつ(主催者)/幼稚園、心身障害学級、小学校、中学校 美術及び中学校 書写/展示室案内

●ポスター サイズ：B3

●出展数：2,437点



B3ポスター



会場風景

目黒区のアート・ブック—1992

会期：1993(平成5)年2月13日—28日

会場：展示室A・B・C，展示ロビー，ワークショップ，エントランスホール，区民ギャラリー

主催：目黒区美術館

目黒区在住・在勤の美術家・書家の方々が過去1年間の間に制作され、公募展や個展に出品された作品を、ジャンル・会派・団体を越えて一堂に会して展覧することで、目黒区のアート・ブックの現況を概観しようとする展覧会の4回目として開催された。出品作家は総計163作家と多く、目黒区におけるアートと書の内容の制作活動の活況をあかして、それなりに充実して好評であった。が、その一方で、手狭となった会場、窮屈な展示といった問題が依然としてあり、展覧会形式の再考がせまられている。

●カタログ

寸法：25.7×19.0cm

ページ数：91頁

デザイン：印象社(ポスター，チラシ，ハガキ共)

内容：あいさつ(加藤貞雄)/図版/作家名索引

●ポスター サイズ：B3

●チラシ サイズ：B5

●ハガキ サイズ：22.0×11.0cm



B3ポスター



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	素材, 技法	寸法(cm)
1	相原吉夫	五月の奥入瀬	油彩, キャンバス	90.9×116.7
2	青木邦子	夙川教会(西宮)	油彩, キャンバス	150.0×123.0
3	青木昌世	21世紀への証言	油彩, キャンバス	130.3×162.1
4	青山 孝	虚像空間と実在 III	油彩, キャンバス	162.0×162.0
5	赤穴桂子	イエーツの詩による作品	油彩, ミックスメディア, 紙	75.0×95.0
6	赤穴 宏	黒の卓	油彩, キャンバス	97.0×162.0
7	渥美澄子	卓上静物	油彩, キャンバス	145.5×112.1
8	天野政雄	絵画教室	油彩, キャンバス	130.3×162.1
9	有本一美	PLEROMA	油彩, キャンバス	130.3×162.1
10	井関安治	早春	油彩, キャンバス	116.8×91.0
11	一柳 幸	木曾御嶽山(王滝口)	油彩, キャンバス	91.0×117.0
12	稲田ハル	月に魅せられて	油彩, キャンバス	112.0×112.0
13	井上 慎	樹影	油彩, キャンバス	112.2×145.5
14	井上早枝子	祈り	油彩, キャンバス	130.0×162.0
15	上間尚子	紅夢	油彩, キャンバス	162.0×112.0
16	内田千代子	minus relation-Q	アクリル, キャンバス	130.0×162.0
17	越後瑤子	宴	油彩, キャンバス	112.1×145.5
18	大塚荘治	北関の春	油彩, キャンバス	80.3×116.7
19	大淵繁樹	宵の長崎	油彩, キャンバス	162.0×130.3
20	小笠原淑子	女	油彩, キャンバス	162.0×162.0
21	小河美智子	卓上静物	油彩, キャンバス	112.1×145.5
22	荻野藤枝	赤い山	油彩, キャンバス	130.3×162.1
23	長部朝子	関之猿	油彩, キャンバス	72.8×91.0
24	甲斐鉄男	閑日	油彩, キャンバス	174.0×142.0
25	河内 光	人, 人, ひと……	銅板	162.0×194.0
26	木川満子	響	油彩, キャンバス	90.9×116.7
27	糸川 清	ある日の埴輪	油彩, キャンバス	130.3×162.1
28	黒沢梧郎	Flying Celestials (飛天) (米沢市世紀音楽ホール壁画のための下絵習作)	油彩, キャンバス	92.0×117.0
29	小園ケイ子	いのちの樹	油彩, キャンバス	116.7×90.9
30	後藤岳楓	晩秋	油彩, キャンバス	72.7×90.9
31	小堀幸子	花に誘われて	油彩, キャンバス	116.7×90.9
32	古茂田美津子	宴(うたげ)	油彩, キャンバス	162.0×162.0
33	斎藤勘也	流	油彩, キャンバス	162.1×130.3
34	佐野美喜男	swimmer	油彩, キャンバス	130.3×193.9
35	佐野雪枝	夏のおわり	油彩, キャンバス	162.1×130.3
36	柴原 雪	蘭のある静物	油彩, キャンバス	145.5×112.1
37	進藤幹弘	城門のある街角	油彩, キャンバス	145.5×112.1
38	末國壽江	野の花	油彩, キャンバス	112.1×145.5
39	菅田いな	ひまわりの絵	油彩, キャンバス	116.7×90.9
40	杉山栄吉	青い鉄扉	油彩, キャンバス	145.5×112.1
41	関戸伊三郎	水道橋のある街	油彩, キャンバス	97.0×130.3
42	瀬谷貴久枝	Play I	油彩, キャンバス	162.0×162.0
43	芹澤恭子	風の盆幻想	油彩, キャンバス	100.0×126.0
44	大工原武司	森の部落	油彩, キャンバス	112.1×145.5
45	大聖寺宏	追憶	油彩, キャンバス	116.7×90.9
46	高山和子	季節がかわって	油彩, キャンバス	116.7×90.9
47	田口正子	ラ・メール	油彩, キャンバス	162.0×130.5
48	種房ひさ子	舞妓	油彩, キャンバス	162.1×130.2
49	田村由利子	漁港	油彩, キャンバス	130.3×162.2
50	戸田芳江	刻流	油彩, キャンバス	75.0×95.0
51	土肥 朗	愁	油彩, キャンバス	130.3×162.1
52	中井幸一	木霊	アクリル, シルクプリント, キャンバス	130.3×162.1

No.	作家名	作品名	表材, 技法	寸法(cm)
53	中岡ユリ	風色	油彩, キャンバス	112.1×145.5
54	梨谷 昭	室内	油彩, キャンバス	130.3×162.1
55	成井 弘	ぼら・シーボニアヨットハーバー	油彩, キャンバス	90.9×116.7
56	西 大記	夢	アクリル, キャンバス	130.5×130.5
57	西川加耶子	静物	油彩, キャンバス	145.5×112.1
58	芳賀 力	フラメンコダンサー	油彩, キャンバス	91.0×72.7
59	橋もあい	ふじびたいの少女	油彩, キャンバス	145.5×112.1
60	長谷川政子	羊飼いと家族	油彩, キャンバス	162.2×130.3
61	原 久子	アトリエからの風景	油彩, キャンバス	150.0×120.0
62	原 正明	白い塔のある風景	油彩, キャンバス	130.0×87.0
63	平松 穰	春日	油彩, キャンバス	130.3×162.1
64	藤沼幹雄	動乱	油彩, キャンバス	145.5×112.1
65	穂刈弘子	風立ちぬ	油彩, キャンバス	91.1×116.8
66	本目勇市	カップとクラゲの饗宴	油彩, キャンバス	112.1×145.5
67	前田さなみ	見透せぬ窓	アクリル, キャンバス	162.0×162.0
68	松永茂樹	羊達のいる風景	油彩, キャンバス	112.1×145.5
69	丸毛利久	ロッカ・マジョーレ	油彩, キャンバス	145.5×112.1
70	宮出 武	シャルトル風景	油彩, キャンバス	97.0×130.3
71	村上彌生	ひととき	油彩, キャンバス	145.5×112.1
72	茂木すみ子	静物	油彩, キャンバス	136.0×103.0
73	元藤郁子	六月	油彩, キャンバス	145.5×145.5
74	森田万樹	風の軌跡	油彩, キャンバス	162.0×130.5
75	柳瀬俊泰	古い絵のあるアトリエ(秋)	油彩, キャンバス	130.3×162.0
76	山本道子	男の像のある……	油彩, キャンバス	162.0×130.3
77	結城智子	楽園の寓話	油彩, キャンバス	161.0×130.3
78	荒井華秋	惜影	紙本墨彩	130.5×162.2
79	市川登孟胡	舞等	紙本着彩	130.5×194.1
80	岩田染華	嚙(オーストリーにて)	紙本墨彩	85.0×110.0
81	岩本美代子	閑	紙本着彩	162.0×162.0
82	澤井白陽	清流激湍	紙本墨彩	130.0×194.0
83	下山豊水	滝 ナイアガラ(カナダ側)	紙本着彩	38.0×62.0
84	菅田鶴陽	志摩の朝	紙本墨彩	145.5×97.0
85	杉浦千秋	秋	紙本着彩	96.0×120.0
86	滝沢昌光	紅富士	紙本着彩	41.0×53.0
87	橘 熙子	いのち	紙本着彩	195.0×132.0
88	田中玉紅	春の日	絹本着彩	112.0×145.5
89	永井菁光	金華山財天	紙本着彩	130.0×50.0
90	永田奈央	耐春	紙本墨彩(屏風二曲半双)	170.0×171.0
91	中村豊園	碧の調べ	紙本着彩	116.7×90.9
92	西村岳芳	秋麗	紙本着彩	90.9×116.7
93	山井梅代	白梅	紙本着彩	65.1×90.9
94	板津陽子	ピエロ	水彩, 紙	53.0×45.5
95	浜田澄子	体内地表	水彩, ネオカラー, 紙	138.0×162.0
96	町田厚子	磁場	インク, 紙	101.0×68.0
97	水谷仁美	霧がはれて	水彩, 紙	123.0×123.0
98	安田清一	ラインの寄港地	水彩, 紙	97.0×130.0
99	稲葉由子	A Souvenir	銅版, 和紙	112.0×76.5
100	坂本正治	ノスタルジック・フィフティーズのための挿画	書籍(私家版), カラー プリント, 紙	21.0×15.0(書籍)/58.0 ×82.5(プリント)
101	長はるこ	B・K・H・L	NECOプリント, 紙	108.0×147.0
102	土屋正男	破摧	型紙版, 和紙	90.0×55.0
103	鳥居禎子	No.5	シルクスクリーン, 麻	90.0×90.0
104	内藤八千代	EX-LIBRIS (蔵書票)	銅版, 紙	7.0~9.5×6.2~9.5(8 点)
105	船坂芳助	My Space and My Dimension M-67	木版, シルクスクリーン, エン ボス, 紙	59.0×56.0

No.	作家名	作品名	表材, 技法	寸法(cm)
106	山岸寛子	Gyotaku I	リグラフ, コラーージュ, 紙	41.0×56.0
107	阿部昌義	風の声	ブロンズ	160.0×45.0×45.0
108	小林達也	恋心 I	黒御影石	34.0×40.0×19.0
109	竹村よし子	うちとそと	陶(一対)	各47.0×25.0×25.0 (一対)
110	二ノ宮裕子	午後の陽ざし	ポリエステル樹脂	90.0×50.0×46.0
111	平山隆也	腕を組む胸像	石	70.0×50.0×25.0
112	有賀則子	チュリップの森	型絵染, 絹	120.0×91.0
113	磯田喜子	抱擁	桐粉, 粘土(一対)	高36.0, 48.0(2体)
114	井高跡山	壺・武蔵野の朝(東が丘谷頭泉昭和18年頃)	黄玉磁, 染付彩色	45.0×40.0×40.0
115	加々路伸子	たそがれ	和紙	65.2×91.0
116	加藤 清	花菖蒲	和紙(二曲屏風)	173.5×176.0
117	嶋 康子	跡想	革	112.0×155.0
118	国光勝子	花園のマリア	絹刺	88.0×59.0
119	小山けい子	巣立ち	ガラス	25.5×60.5
120	小山弘治	染付足付鉢	白磁	30.0×30.0×30.0
121	佐野司山	一の谷合戦図	二曲屏風	70.2×112.0
122	高橋 操	装ひ雛	石塑粘土(7体)	26.0×45.0×40.0
123	土屋あづみ	麦秋	型絵染, 麻	88.0×86.0
124	町田 忍	最後の戦士	牛皮革, 印伝革, 金属	45.0×25.0×45.0
125	山本伸子	森の都	省胎七宝鉢	径20.5, 高12.0
126	行吉志津枝	「モーヴ」の形象	染色パネル	200.0×160.0
127	吉田米子	モンステラ	和紙, 麻紙ボード	65.2×91.0
128	浅香恵堂	華明	木(刻字)	30.0×45.0×2.0
129	天野白陽	(自作)	額	240.0×60.0
130	飯島華窓	稲畑汀子の句	軸	199.5×45.5
131	池田少雲	高青邱詩	軸	240.0×60.0
132	上松一條	霧中花	額	158.0×158.0
133	宇治摩耶	伝藤原行成書「大字朗詠」部分	軸	39.0×180.0
134	岡田玲舟	梅の花	額	67.0×96.0
135	狹須耕陽	侵掠如火 不動如山	軸	123.0×40.5
136	小原紫琴	いろは	額	78.0×78.0
137	影山房子	松村英一の歌	額	242.0×61.0
138	風間凌山	袁枚詩	額	240.0×60.0
139	北島菁丘	草庵	額	60.0×180.0
140	工藤小汲	杜甫詩	軸	160.0×40.0
141	栗林松雅	春霞み	額	48.0×170.0
142	栗山鳳雪	送陸羽 皇雨曾詩	額	240.0×60.0
143	小林抱牛	巖	額	182.0×121.0
144	近藤祐溪	華一字	軸	185.0×79.0
145	佐伯杏花	秋浦歌(李白)	額	242.0×91.0
146	首藤佳泉	平常心是道	軸	180.0×35.0
147	関 墨水	楊柳七言二句	額	90.0×180.0
148	田中赤城	篆, 四言句(歐陽修)	軸	200.0×50.0
149	田中葉玉	舟	軸	170.0×53.0
150	田淵觀齋	寿山福海	額	220.0×60.0
151	丹治思郷	山上月	額	50.0×135.5
152	續木湖山	夢中問答(良寛)	軸	120.5×59.5
153	津守祥玉	王維詩	額	220.0×60.0
154	服部虚舟	心地乾淨	額	39.0×30.0
155	原嶋竹堂	苦しみのなかに道はひらかれる	額	69.0×69.0
156	藤田紫香	望天門山(李白)	軸	160.0×43.0
157	堀田小葉	あきしの	額	80.0×165.0
158	水野精一	ゆくものを(自詠)	額	150.0×150.0
159	持田春翠	前田透の歌	額	182.0×91.0
160	森本妙子	静寂	額	240.0×60.0

No.	作家名	作品名	表材, 技法	寸法(cm)
161	保浦玉英	曾鞏詩	額	各224.0×53.0(一对)
162	山崎方石	菊有芳	篆刻	54.0×38.0
163	渡邊三代子	清水比庵の歌	額	68.0×88.0

いにしへの詩・モダンのかたち 土の詩人 安原喜明展

会期：1993(平成5)年3月6日－4月4日

会場：展示室A・B・C, 展示ロビー

主催：目黒区美術館 日本経済新聞社

担当学芸員：正木 基

同時開催：ワークショップ・土と木の言葉

安原喜明は、戦前から東陶会展や帝展に出品、勅使河原蒼風との出会いに大きな影響を受け、戦後も日展などに出品し続ける一方で、造形的な意志の強い創作を行った点で注目されるべき存在である。しかし、彼の仕事として広く知られるようになった、ロクロを使わず、土に線彫りや象眼を施した、いわば伝統的な技法を駆使して、新しい時代性を生み出そうとして成功した炆器の作品の陰にその極めて革新的な仕事も隠れている。本展では、陶芸の伝統と革新の両側面を踏まえた安原の仕事 작품을136点と参考資料50点のほかによって、余す事なく紹介することを意図して企画された。

展示にあたっては、戦前、二代宮川香山や板谷波山に師事したのちのデビューまもなくから帝展入選までの時期、資生堂個展開催による草月流の勅使河原蒼風との出会いから戦後まもなく彼のための抽象作品を制作するまでの時期、そして戦後日展と現代工芸美術展などを中心に発表し、工芸としての陶器の確認を進めた時期とにわけて行った。その方法として、作品を一点一点、点的に見せる展示方法、作風の変位を流れて見せる線的な展示方法、類として展示してその中に類似と差異とをみいだしてもらう面的な展示方法とを組み合わせ、工芸の立体性をどう見せるかという展示を試みた。さらに草月会の協力をいただき、会期中、草月流の中村文子氏に会場展示作品への生け花をお願いした。花生けとして作られた作品は、花を生けられてこそ花生けとしての表情を見せるはずだという認識はもとより、陶作品から口を取った抽象作品へと安易には流されなかった安原の生涯の意気を、生け花によってより鮮明に提示したつもりである。

●カタログ

寸法：25.7×19.1cm

デザイン：印象社(ポスター、チラシ共通)

ページ数：137頁

内容：ごあいさつ(加藤貞雄)/安原喜明展に寄せて(安原春)/安原喜明の陶芸(長谷部満彦)/安原喜明と勅使河原蒼風の思い出(勅使河原宏・安原喜孝)/図版/参考出品資料/自筆文献採録/日展、現代工芸美術展、日本現代陶芸展等出品作品一覧/やきものと安原喜明の陶枝(安原喜孝)/略年譜/安原喜明の軌跡/参考文献/出品目録

●ポスター サイズ：B2, B3

●チラシ サイズ：B5

●主要関連記事

赤旗 1993年4月2日

「花があつての器を見せるために 安原喜明展に花を添える」

中村文子 展覧会のいけばな 1994 1994年3月



B2ポスター



会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵先
●戦前編					
1	一輪指し・柳文様	制作年不詳	φ8.5×12.5		個人
2	裸婦(習作)	制作年不詳	15.0×14.0×24.0 15.0×13.2×23.7		個人
3	黄磁遊環耳付き花瓶	制作年不詳	φ13.5×18.5		個人
4	花瓶	制作年不詳	φ15.3×18.2 15.5×14.0		個人
5	乳白釉葡萄文水注	1928(昭和3)頃	22.7×18.5×23.0		個人
6	磁器・葡萄のある壺	1928(昭和3)頃	φ17.0×21.8		個人
7	鉄砂釉葡萄文花瓶	1928(昭和3)頃	φ17.3×20.0		個人
8	窯変花瓶(脚に透彫)	制作年不詳	φ21.5×29.5		個人
9	透陶板底込下アー	1930(昭和5)	陶板φ28.0×4.0 下ア181.7×90.0×4.0	第11回帝展	個人
10	赤釉磁花瓶	1930(昭和5)頃	22.3×22.0×18.5		個人
11	窯変釉花瓶	1930(昭和5)頃	φ26.2×29.0		個人
12	照明器具	1931(昭和6)	23.8×16.0×42.0		東京国立近代美術館
13	透彫軒燈(丸型)	1932(昭和7)頃	濃茶φ34.0×15.5 薄茶φ34.5×16.0		個人
14	面取り線彫文水注	制作年不詳	24.0×11.6×27.8 20.5×10.0×24.8		個人
15	花生	1933(昭和8)	φ17.3×13.3		個人
16	花瓶	1933(昭和8)	φ11.5×27.5		個人
17	飾り皿	1933(昭和8)	φ26.0×3.0		個人
18	花瓶白磁	1933(昭和8)	28.0×20.0×20.0		草月美術館
19	花瓶白磁染付け(呉須図案)	1933(昭和8)	29.0×13.0×13.0		草月美術館
20	花盛器白磁(高台形)	1933(昭和8)	27.0×25.0×25.0		草月美術館
21	盛器	1933(昭和8)	φ27.3×12.7		個人
22	香炉	1933(昭和8)	φ13.0×7.5 φ12.0×9.5 対(1点蓋なし)		個人
23	花生(オシ付)	1933(昭和8)	φ14.5×9.5		個人
24	水盤	1933(昭和8)	φ29.2×9.0		個人
25	花器	1933(昭和8)	φ25.5×21.7		個人
26	脚付飾り皿	1933(昭和8)頃	φ30.2×9.3		個人
27	飾り皿	1934(昭和9)	φ27.0×3.0		個人
28	窯変花瓶	1935(昭和10)	φ23.5×21.5		個人
29	窯変青釉花生	1935(昭和10)頃	φ28.0×37.0		目黒区美術館
30	陶器窯変線彫花瓶(窯変壺)	1936(昭和11)	φ20.0×29.0	改組第1回帝展	個人
31	艶消釉花瓶	1936(昭和11)頃	φ24.3×23.4×18.8		個人

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵先
32	線彫艶消釉盒子	1936(昭和11)	φ18.5×8.8		個人
33	炆器置物・花	1938(昭和13)頃	22.8×13.2×5.0		個人
34	炆器花挿	1938(昭和13)頃	9.7×16.1×22.6		個人
35	炆器盒子	1939(昭和14)	φ11.8×5.4		個人
36	炆器盒子	1939(昭和14)頃	φ21.0×8.2		個人
37	炆器四方耳付盛器	1940(昭和15)	φ27.0×20.5		個人
38	印花文炆器香炉	制作年不詳	φ11.3×7.0		個人
39	線彫文窯変釉花器	1940(昭和15)	φ26.0×29.0		東京国立近代美術館
40	水指・箆瓢	1942(昭和17)頃	φ17.0×15.5		個人
41	窯変線彫牡丹文扁壺	1942(昭和17)頃	8.5×25.5×29.7		個人
●戦後編					
42	白泥象嵌炆器香炉	1946(昭和21)	φ14.0×8.5		個人
43	土瓶・手捻り焼	1946(昭和21)頃	16.7×13.7×16.0		個人
44	状差遠し彫艶消し釉	1946(昭和21)頃	18.5×17.0×11.0		草月美術館
45	線彫文三鳥手花瓶	1946(昭和21)頃	φ23.0×28.2		個人
46	香炉博山炉	1946(昭和21)頃	φ10.8×14.2 φ9.5×14.5		個人
47	ボンボン入れ線彫搔落とし	1946(昭和21)頃	φ12.3×9.5 φ12.0×9.0		個人
48	ボンボン入れ葡萄文象嵌	1946(昭和21)頃	φ10.5×7.5		個人
49	窯変木葉文透彫盛器	制作年不詳	φ28.0×20.0		目黒区美術館
50	花挿線彫文焼	制作年不詳	19.5×12.0×11.0		草月美術館
51	香炉窯変釉	制作年不詳	8.4×9.2×9.2		草月美術館
52	灰被燒締花挿	1958(昭和33)	41.5×16.0×22.0	東陶会展, オーストラリア・ニュージーランド巡回 日本現代美術展	東京国立近代美術館
53	花器	1950(昭和25)頃	7.8×26.2×18.8		個人
54	花挿艶消し釉	制作年不詳	27.0×16.0×9.0		草月美術館
55	花挿焼	1950(昭和25)頃	9.5×20.0×23.0		個人
56	花挿焼	1950(昭和25)頃	9.5×16.6×26.6		個人
57	花挿掛分け	1954(昭和29)	6.3×16.8×26.6	第3回日本現代陶芸展	個人
58	花挿焼	1950(昭和25)頃	32.0×14.5×8.0		草月美術館
59	花挿焼	1950(昭和25)頃	24.0×15.0×18.5		草月美術館
60	花挿焼(鳥)	1950(昭和25)頃	24.5×9.5×9.5		草月美術館
61	花器軟陶黄釉	1950(昭和25)頃	10.5×28.5×28.7		個人
62	花挿	1952(昭和27)	33.5×27.5×51.5	第8回日展	個人
63	花挿	1953(昭和28)頃	14.7×11.2×31.5		個人
64	花器焼	1953(昭和28)頃	80.0×42.0×18.0		草月美術館
65	花器金茶釉	1953(昭和28)頃	68.0×54.0×24.0		草月美術館
66	花器黒釉	1953(昭和28)	106.0×33.0×33.0		草月美術館
67	花器(黒釉)	1953(昭和28)	90.0×45.0×45.0		草月美術館
68	花器焼	1953(昭和28)	59.0×12.5×12.5		草月美術館
69	花器	1953(昭和28)	87.0×22.0×22.0		草月美術館
70	花器	1953(昭和28)	98.0×35.0×35.0		草月美術館
71	焼締花器・港	1954(昭和29)	48.5×13.3×55.3	第10回日展	東京国立近代美術館
72	花器窯変釉	制作年不詳	47.0×76.0×30.0		草月美術館
73	白泥堆線文花器	1955(昭和30)頃	15.0×40.0×37.0		個人
74	緑泥線彫文花挿	1955(昭和30)頃	14.5×12.7×28.5		個人
75	花器紺泥線彫文	1955(昭和30)頃	25.0×9.5×9.5		草月美術館
76	水指し・焼	1955(昭和30)頃	φ17.0×17.5		個人
77	炆器花生・海底	1956(昭和31)	27.0×26.5×24.5	東陶会	個人
78	習作	1958(昭和33)	9.0×7.5×16.3		個人
79	庭園裝飾	1958(昭和33)	60.0×48.0×149.0 (台付き)	第1回日展	個人
80	花挿焼	1958(昭和33)頃	8.5×31.0×30.7		個人

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵先
81	焰器線彫白泥象嵌文花器一家	1959(昭和34)	φ24.5×50.5	第2回日展・ 現代日本陶芸の展望	個人
82	焰器花挿(線彫文)	1960(昭和35)頃	φ20.0×44.5		個人
83	(水指し)三島手	1960(昭和35)頃	φ16.0×14.0		個人
84	焰器花挿植物	1960(昭和35)頃	40.0×37.0×12.5		草月美術館
85	市街焰器花挿	1961(昭和36)	φ32.2×38.3	第4回日展	個人
86	焰器花挿・植物	1961(昭和36)	14.0×13.0×40.5 13.7×13.0×36.0	第1回現代工芸美術展	個人
87	五人の少女	1962(昭和37)	φ11.0~14.0× h.50.0~51.0		目黒区美術館
88	焰器花挿 空の花	1963(昭和38)	11.0×36.5×45.5	現代国際陶芸展	東京都美術館
89	焰器花生	1963(昭和38)	20.5×18.8×35.5	第2回現代工芸美術展・ 毎日第4回日本陶芸展	個人
90	焰器(宇宙塵)	1964(昭和39)	28.5×56.0×19.0	第7回日展・'66個展(三越)	草月美術館
91	焰器花生	1965(昭和40)	22.5×19.5×42.0		個人
92	焰器花挿	1965(昭和40)	11.9×15.5×26.0		個人
93	焰器花挿・宝冠	1965(昭和40)	30.0×21.0×43.0		個人
94	焰器花挿	1965(昭和40)頃	16.5×15.5×46.3		個人
95	焰器花挿	1965(昭和40)頃	15.8×15.8×51.5		個人
96	焰器花挿	1965(昭和40)頃	45.0×13.0×13.0		草月美術館
97	焰器花挿(佇立)	1965(昭和40)頃	42.0×12.0×10.0		草月美術館
98	焰器多口瓶	1965(昭和40)頃	13.5×12.8×38.0		個人
99	焰器多口瓶花挿	制作年不詳	φ20.0×41.5		目黒区美術館
100	金茶花挿・舟	1966(昭和41)	35.2×8.3×23.0	'66個展(三越)	個人
101	焰器花挿(線彫文)	1966(昭和41)	φ34.5×35.2	'66個展(三越)	個人
102	焰器焼メ	1966(昭和41)	26.7×16.7×27.3	'66個展(三越)	個人
103	焰器花挿(トリマ)	1966(昭和41)	25.0×13.5×13.0	'66個展(三越)	草月美術館
104	花挿焼メ(午)	1966(昭和41)	12.5×32.0×15.0	'66個展(三越)	草月美術館
105	焰器花挿	1966(昭和41)	36.0×37.0×37.0	第9回日展	草月美術館
106	花器灰かむり焼メ	制作年不詳	33.0×9.0×40.0	東陶会展('58頃?)	目黒区美術館
107	焰器花生	1967(昭和42)	24.0×24.4×45.5	'67個展(三越)	個人
108	焰器	1967(昭和42)	13.5×11.5×40.0		個人
109	焰器花生(貼付文)	1967(昭和42)	20.3×20.5×34.0	'67個展(三越)	個人
110	焰器花挿・種子の旅	1967(昭和42)	φ36.0×30.0	第10回日展・日本芸術院賞	目黒区美術館
111	焰器花挿・銀河	1968(昭和43)	φ35.0×31.7	第11回日展・ 日本の名陶百五十選展	東京国立近代美術館
112	焰器花挿	1968(昭和43)	φ14.7×19.5		個人
113	焰器花挿	1968(昭和43)	20.3×15.7×27.5		個人
114	焰器香炉印花文 (寺本美茂作・銀火屋付)	1968(昭和43)頃	φ10.3×9.8		個人
115	花器宝物	1968(昭和43)頃	φ17.0×11.5	土窯グループ展	個人
116	焰器花挿	1969(昭和44)	φ27.5×54.8	改組第1回日展	個人
117	焰器花生(貼付文)	1970(昭和45)	17.3×16.5×35.5		個人
118	焰器花生	1970(昭和45)	21.7×21.5×27.5		個人
119	焰器花挿	1970(昭和45)	φ23.7×42.0	第2回日展	東京国立近代美術館
120	焰器花生	1970(昭和45)頃	φ16.5×35.0	'74個展(三越)	個人
121	花挿(掛分)	1970(昭和45)頃	15.0×14.0×26.7		個人
122	艶消釉花瓶	1970(昭和45)	15.0×14.5×30.5 12.0×12.4×29.0		個人
123	釣り花器	1972(昭和47)	18.4×18.2×60.5	第11回現代工芸美術展・ 毎日日本陶芸展海外展	個人
124	焰器花生	1972(昭和47)	19.2×16.3×41.5		個人
125	焰器花生	1972(昭和47)	24.0×19.0×49.0	第4回日展	東京都美術館
126	焰器花生	1972(昭和47)頃	14.0×13.5×24.0		個人
127	焰器花生	1974(昭和49)	21.3×19.0×46.5	'74個展(三越)	個人
128	焰器花挿(線彫文)	1974(昭和49)	φ31.0×32.2	'74個展(三越)	個人
129	焰器花生	1974(昭和49)	22.0×21.0×15.5	'74個展(三越)	個人

No.	作品名	制作年	寸法(cm)	展覧会歴	所蔵先
130	炆器花生	1974(昭和49)	18.0×13.3×21.5	個展	個人
131	炆器花挿印花文	1974(昭和49)	φ34.2×30.5	第6回日展	個人
132	大皿・印花文志野	1974(昭和49)	φ37.0×7.5	'74個展	個人
133	炆器花挿	1975(昭和50)	φ34.5×35.0	第7回日展	東京国立近代美術館
134	炆器花挿	1976(昭和51)	22.7×21.0×48.5	第8回日展	個人
135	炆器花挿・華	1977(昭和52)	26.3×25.2×57.8	第9回日展	個人
136	炆器花生	1978(昭和53)	φ28.5×29.8	第10回日展	個人
137	炆器花生	1979(昭和54)	φ36.0×34.2	日展理事新作展 (日展銀座展覧会場)	個人
138	花生炆器印花文	1979(昭和54)	27.0×24.5×45.0	第11回日展	個人
139	炆器線彫文花生	1980(昭和55)	φ31.0×27.0	第12回日展	目黒区美術館

以上の公立美術館を除く作品のタイトル確定と制作年推定の作業については、ほぼ全面的に安原喜明のご子息・安原喜孝氏によっている。

●参考出品

1	スケッチ(成蹊中学時代) 1927	26	瀬戸での制作報告葉書 1953頃
2	色釉試験(富川香山工房時代) 1925頃	27	釣り花器 1957
3	紅椿窯初代窯設計図 1927頃	28	『炆器花挿—植物』 カラージュ・デッサン 1960頃
4	紅椿窯初代窯設計図(寸法は矩尺) 1927頃	29	『炆器花挿—植物』(裏面) デッサン 1960頃
5	釉薬試験ノート1・2 1927頃	30	『五人の少女』姉妹作 1962頃
6	釉薬試験1データ・ノート 1930頃	31	皿(五人の少女) 1962頃
7	(第11回帝展作のための)釉薬試験その1 1930	32	少女の連作デッサン 1962頃
8	(第11回帝展作のための)釉薬試験その2 1930	33	少女の連作デッサン 1962頃
9	(第11回帝展作のための)釉薬試験その3 1930	34	壺デッサン B5ノート 1962頃
10	軒燈石膏型 1931頃	35	壺デッサン B5ノート 1962頃
11	透彫軒燈(角型) 1932頃	36	中井宗男著『日本画の周辺』(美術評論社)装丁 1965
12	水注ハンドル・注口石膏型 制作不詳(戦前)	37	『日本画の周辺』装丁下絵 1965頃
13	色釉試験 1932頃	38	『日本画の周辺』装丁下絵 1965頃
14	柳図皿デッサン 制作不詳(戦前)	39	図案デッサン 1965頃
15	初期図案 制作不詳(戦前)	40	図案デッサン 1965頃
16	初期図案 制作不詳(戦前)	41	図案デッサン 1968頃
17	初期図案 制作不詳(戦前)	42	図案デッサン 1968頃
18	初期図案 制作不詳(戦前)	43	炆器多口瓶連作デッサン 1960代
19	資生堂個展時代デッサン 1934頃	44	炆器多口瓶連作デッサン 1960代
20	第1回個展記念の急須 1934	45	炆器線彫文花挿デッサン 1970代
21	勅使河原蒼風絵付湯呑み茶碗 1936	46	東陶会雑誌『東陶』創刊号
22	『花挿』デッサン 1950代	47	東陶会展 1回展・2回展目録
23	『花器金茶釉』(No.65)デッサン 1953頃	48	資生堂個展案内状
24	図案デッサン 1953頃	49	草月流講堂における個展案内状
25	図案デッサン 1953頃	50	三越における個展パンフレット

II. 教育普及

1. ワークショップ

■ワークショップ・手と目の冒険広場 「色の博物誌・青—永遠なる魅力」

(展示部門記録等は、I. 展覧会の項参照P.13)

●こどものためのワークショップ

A. アオーノがやってきた！ 青い光の中の私のかたち

「青い色の作品の中に、“アオーノ”という生き物が存在し、作品をじっくり見る者だけに信号を送っている」という仮説をたて、作品を見ながらそれがどのようなものであるか想像を巡らしてグループで話し合った。そこで生まれたイメージを具体化するため、さまざまな素材で“アオーノ”のすみかを制作し、最後にブラックライトを使用し、完成作品を青い光で照らした。

講師：熊谷優子(造形作家)

開催日：8月6日(木)、7日(金)、8日(土) 1:00p.m~5:00p.m

参加者：24人(小学生、中学生)



こどものためのワークショップ

B. 青い国のシンボルタワー

展示をめぐる、青にまつわる象徴的な意味やその歴史を知り、絵画や立体に表現された青の世界を体験し、想像力をふくらませて行った。展示を通して感じた色彩体験について、グループで話し合い、青い国の物語を考えた。青い色にそれぞれの意味を見いだしながら、夢を託した象徴的なシンボルや、空想のスマールワールドを制作した。

講師：ワークショップ・スタッフ

開催日：8月20日(木)、21日(金)、22日(土)

1:00p.m~5:00p.m

参加者：26人(小学生、中学生)

C. アクションペインティング—青い海と青い空

空や海を連想するように、人は、青い色に果てしない広がり求めてきた。そうした色のイメージの広がりを発想

のてがかりとして表現を発展させ、自分だけの“青い色”を創り、からだを絵筆に大きな紙に絵を描いた。

講師：ワークショップ・スタッフ

開催日：8月28日(金)、29日(土) 1:00p.m~5:00p.m



こどものためのワークショップ

●おとなのためのワークショップ

A. ラピスラズリから青をつくる&ミニアチュールの制作—テンペラ技法から

ヨーロッパや西アジアで珍重された半貴石ラピスラズリから、青い顔料(天然ウルトラマリンブルー)をつくった。そして作品の制作工程や中世の絵画材料の話などをおりませ、絵の具となる顔料を自分の手で作ることを考えた。また、自作の青い顔料を使って、古典技法に基づきながらミニアチュールの制作を行った。

講師：石原靖夫(作家)

開催日：8月2日、9日、16日、23日、30日(日)

11:00a.m~4:30p.m

参加者：36人



おとなのためのワークショップ

B. レクチャー(ひもとかれた絵画の秘密—「聖家族」の修復現場から)

16～17世紀のイタリアで描かれた「聖家族」。その画面の中で、聖母マリアの衣に使われている青い絵の具をクローズアップし、徹底的に行われた修復過程をたどり、科学の目から絵画の秘密にせまった。

講師：歌田真介(修復研究所所長)

開催日：9月6日(日) 2:00p.m～4:00p.m

参加者：91人

●どなたでもワークショップ

遊びの広場・一枚の青い贈り物

青い素材や色を材料に紙を漉いたり、コラージュしたりなどして、一枚のはがきをつくり、夏のおたよりを贈るという設定で行った。

講師：ワークショップ・スタッフ/協力：目黒区美術館
ボランティア会

開催日：8月1, 4, 5, 11, 12, 13, 14, 15, 18, 19,
25, 26, 27日

9月4, 5, 11, 12, 13, 15日

1:00p.m～5:00p.m

参加者：延べ950人

■ワークショップ・土と木の言葉

会期：1992年3月6日～4月4日

会場：ワークショップ

主催：目黒区美術館

担当学芸員：降旗千賀子

ワークショップ・アシスタント：榎本寿紀

同時開催：土の詩人 安原喜明展

●おとなのためのワークショップ

A. 土と手の響き——“掻き落とし”による陶板

同時開催の安原喜明展に関連させ、作品鑑賞と焼き物の実制作を行った。“掻き落とし”技法で陶板を作成し、土こねから焼成までの工程を体験した。



おとなのためのワークショップ

講師：安原喜孝(陶芸作家)

開催日：3月9日(火), 10日(水), 11日(木), 18日(木), 25日(木)

10:30a.m～4:30p.m

参加者：24人

B. 木と手の響き——さまざまな木の言葉

多種多様な木切りに触れ、自然に育まれた木の魅力のありかを探った。珍しい樹種の自然木を材料に、掌に入る木のオブジェを創った。

講師：横尾哲生(造形作家)

開催日：3月16日(火), 17日(水), 23日(火), 24日(水)

10:30a.m～4:30p.m

参加者：16人



おとなのためのワークショップ

●こどものためのワークショップ

A. 土と遊ぶ——“かたち”のなかの“かたち”

サラサラの土から粘土がどのようにできるかを体験した。自分達でつくった粘土で、全身どろんこになりながら、「高いものづくり」「長いものづくり」「壁のぬりこめ競争」などを行い、楽しい土の造形を行った。



こどものためのワークショップ

講師：井上雅之(造形作家)

開催日：3月20日(土), 21日(日) 10:30a.m~4:30p.m

参加者：40人(小学生)

B. 木と遊ぶ——木端と丸太

いろいろな色, いろいろな匂いの木に囲まれながら, 自分の好きな木を取り出して, 木との対話を楽しんだ。さらに1本の大きな木のまわりに自分が置きたいものをグループで考え, のみをふるい, 割ったり, つなげたりして木の造形を楽しんだ。

講師：菅沼緑(彫刻家)

開催日：3月6日(土), 13日(土) 1:30p.m~5:00p.m

3月7日(日), 14日(日) 10:30a.m~4:30p.m

参加者：26人(小学生)



こどものためのワークショップ

2. 展覧会関連事業

■ 澤部清五郎展—絵筆のゆくえ, インテリアへの道—

● ギャラリーツアー

対象：学生

参加者：200人(会期中5組に分けて実施)

■ ロシアのころろ・イコン展

● 講演会：グラバーリ美術科学修復センターの仕事

講師：A.N.オヴチニコフ(グラバーリ美術科学修復センター修復家)

日時：10月17日(土)

参加者：139人

● 講演会：ロシアのイコンを訪ねて

講師：定村忠士(劇作家)

日時：10月17日(土)

参加者：139人

● ミュージアム・コンサート

演奏：目黒バロック室内オーケストラ, 指揮：大野洋

演奏曲目：ディベルティメント(K.138)/ノクターン 弦楽四重奏曲第2番より第3楽章/アンダンテ・カンタービレ 弦楽四重奏曲第1番作品11より第2楽章/弦楽セレナーデ ハ長調 作品48

日時：11月15日(日)

参加者：201人

Ⅲ. 入館状況

展 覧 会 名	会 期	開催日数 (日)	入館者数(人)		会 場	備 考
			総 数	1日平均		
シャガール ひびきあう色彩の詩展 —連作版画と油彩—	4年4.11— 5.17	32	22,940	717	A,B,C,L W,E	
澤部清五郎展 —絵筆のゆくえ, インテリアへの道—	4年5.23— 6.28	32	5,986	187	A,B,C,L W,E	
色の博物詩・青—永遠なる魅力— ワークショップ・手と目の冒険広場	4年8.1— 9.15	39	12,610	323	A,B,C,L W	
目黒区美術館開館5周年記念 ロシアのこころ・アイコン展	4年10.17— 12.6	44	23,994	545	A,B,C,L W,E	
所蔵作品展 Part1 美術が2倍半位わかりそう遊入門展 Part2 孤高の画家—巴里に死す・住川忠夫展	4年12.18— 5年1.17	21	3,542	169	A,B,C,L W,E	
めぐろの子どもたち展 平成4年度目黒区幼稚園, 小・中学校 連合展覧会	5年1.23— 2.7	14	6,810	486	A,B,C,L W,E	
目黒区の美術・書—1992	5年2.13— 2.28	14	2,302	164	A,B,C,L W,E,G	
土の詩人 安原喜明展	5年3.6— 4.4	26	3,100	119	A,B,C,L E	
計	—	222	81,284	366	—	—

A=展示室A, B=展示室B, C=展示室C, L=展示ロビー, W=ワークショップ, E=エントランスホール, G=区民ギャラリー

IV. 作品収集

●目黒区美術館資料収集基本方針

目黒区美術館資料の収集については、優れた美術作品(以下「作品」という。)と、その理解を深めるうえで補助的な役割を果たし得る資料(以下「補助資料」という。)を、次の項目により計画的に収集する。

記

1. 近代から現代に至るわが国の美術の流れを体系的に理解するうえで有益な作品
2. 作品の成立する過程、素材および技術と表現の関係を理解するうえで有益な作品および補助資料
3. その他、目黒区美術館の所蔵品としてふさわしい作品および補助資料

収集対象

- 作 品 平面(洋画, 日本画, 素描, 版画, 書など)
立体(彫刻, 工芸など)
映像(写真, 映画, ビデオなど)
- 補助資料 素材・工程・技法などに関わる補助資料
作品制作に関わる書簡, 日記など
上記収集に関わる文献

●収蔵作品件数

年 度	平 面	立 体	映 像	工 芸	コレクション	計
昭和56～平成3	468	15	10	12	1	506
平成4	63					63
計	531	15	10	12	1	569

平成4年度 収蔵作品一覧

○購入作品

作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材	摘要
荻須高德	パリのカフェ	1931	60.6×72.7	油彩, キャンバス	
池田満寿夫	ベッドに横たわる女	1964	65.2×80.3	油彩, キャンバス	
池田満寿夫	黒い女	1964	80.3×65.2	油彩, キャンバス	
村上友晴	無題	1980-82	162.0×130.0	油彩, キャンバス	
村上友晴	無題	1985-87	162.0×130.0	油彩, キャンバス	
木下 晋	無・I	1992	165.0×99.5	鉛筆, ケント紙	
木下 晋	無・II	1992	165.0×99.5	鉛筆, ケント紙	
木下 晋	無・III	1992	165.0×99.5	鉛筆, ケント紙	
古茂田守介	黄色いりボンの少女	不明	33.4×24.0	油彩, 板	
古茂田守介	静物(壺)	1957	49.5×59.5	油彩, キャンバス	
古茂田守介	木蓮	1958	46.2×27.9	油彩, キャンバス	
古茂田守介	なす	1959	32.0×41.0	油彩, キャンバス	
古茂田守介	ダルマストーブ	1949	37.5×29.8	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	ひまわり	1952	37.0×29.1	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	かがむ裸婦	1956	27.1×31.4	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	かがむ裸婦(青)	1956頃	28.0×22.2	インク, 水彩, 紙	
古茂田守介	横座りの裸婦	1957	35.0×24.8	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	花と菫	1957年	36.1×25.5	インク, 紙	
古茂田守介	ポーズ四態	不明	27.2×38.0	インク, 紙	
古茂田守介	本を読む女	不明	37.2×29.3	コンテ, 紙	
古茂田守介	立て膝の裸婦	不明	37.0×29.0	鉛筆, 紙	
古茂田守介	うずくまる裸婦	不明	25.0×34.5	鉛筆, 紙	
古茂田守介	顔	不明	35.8×24.8	コンテ, 紙	
古茂田守介	横向きの顔	不明	35.4×25.5	コンテ, 紙	
古茂田守介	椅子に座る女	不明	29.3×24.2	インク, 鉛筆, 紙	
古茂田守介	座る裸婦	1958頃	27.9×16.1	コンテ, 紙	
古茂田守介	うつ伏せの裸婦	不明	27.1×38.8	墨, 紙	
古茂田守介	後向きの二人の裸婦	不明	36.0×25.2	インク, 鉛筆, 墨, 紙	
古茂田守介	横向きに座る裸婦	不明	36.0×26.5	鉛筆, 紙	
古茂田守介	足を組んで座る裸婦	不明	27.2×19.8	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	安座する裸婦	不明	35.8×25.3	パステル, インク, 水彩, 紙	
古茂田守介	横向きに立つ裸婦	不明	33.8×24.7	鉛筆, 墨, 紙	
古茂田守介	後向きに座る裸婦	不明	27.1×19.0	インク, モノタイプ, 鉛筆, 紙	
古茂田守介	イーゼルと裸婦	不明	35.8×25.3	パステル, インク, 紙	
古茂田守介	佇立する裸婦	不明	38.0×27.0	パステル, 水彩, 紙	
古茂田守介	黄色い背景の裸婦	不明	37.7×27.4	パステル, 水彩, 紙	
古茂田守介	前屈みに座る裸婦	不明	19.0×27.0	パステル, 水彩, 紙	
古茂田守介	着座する裸婦	不明	27.0×19.0	パステル, 鉛筆, 紙	
古茂田守介	立てる裸婦	不明	38.0×27.0	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	二人の座る裸婦	不明	14.5×15.4	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	六つのリング	不明	25.3×36.0	インク, 紙	
古茂田守介	柿と茶碗	不明	25.0×34.8	鉛筆, 紙	

○ 購入作品

作家名	作品名	制作	寸法(cm)	素材	摘要
古茂田守介	かわら	不明	26.9×37.9	パステル, インク, 水彩, 紙	
古茂田守介	二匹の黒いカレイ	不明	19.0×27.0	パステル, 墨, 紙	
古茂田守介	枝と葉	不明	28.8×22.4	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	作品	不明	16.8×26.9	パステル, インク, 墨, 紙	
古茂田守介	寝ている人	不明	13.5×19.7	墨, 鉛筆, 紙	
古茂田守介	マスク	不明	19.0×27.0	インク, 墨, 紙	
古茂田守介	丸干し	不明	25.2×35.8	インク, 鉛筆, 紙	
古茂田守介	ひらめ	不明	13.5×8.5	インク, 鉛筆, 紙	
古茂田守介	ふたつの壺	不明	36.0×25.0	モノタイプ, 紙	
古茂田守介	壺	不明	38.3×26.9	モノタイプ, 紙	
古茂田守介	窓の前に座る裸婦	不明	35.8×27.1	モノタイプ, 紙	
古茂田守介	カレイ二匹	不明	36.2×25.5	モノタイプ, 紙	
古茂田守介	皿・壺・瓶	不明	26.3×34.3	モノタイプ, 紙	
合 計				5作家 55件	

○ 寄贈作品

作家名	作品名	制作	寸法(cm)	素材	摘要
荻須高德	にわとり	1938頃	38.5×46.4	油彩, キャンバス	
荻須高德	鯨	不明	27.2×35.4	油彩, キャンバス	
村上友晴	無題	1984	59.0×47.2	油彩, アクリル, 紙	
村上友晴	無題	1984	59.0×47.2	油彩, アクリル, 紙	
木下晋	旅立ち	1992	190.0×100.0	鉛筆, ケント紙	
木下晋	シロ1	1988	50.0×99.8 (62.0×112.1)	鉛筆, ケント紙	
磯辺行久	凧シリーズ	1963-64	187.0×91.0	シルクスクリーン, コラージュ, 糸	
ジュル・パスキン	1930年年賀状 ed.50 すべてノー・ナンバー, ノー・サイン, パスキン没後刷	1929	16.1×11.5 (21.5×16.2)	エッチング, 紙	
合 計				5作家 8件	

V. 作品貸出

作 品	作 者	期 間	貸 出 先	展覧会名	備 考
室内群像	鈴木 誠	4.4.1—8.5	北海道立近代美術館, 下関市立美術館	日本のリアリズム1920S ～50S	
戦争A	飯田善園	4.4.1—8.5	北海道立近代美術館, 下関市立美術館	日本のリアリズム1920S ～50S	
母と子	青山義雄	4.5.22—6.24	横須賀市はまゆう会館	青山義雄展	
リュクサンブール公園	青山義雄	4.5.22—6.24	横須賀市はまゆう会館	青山義雄展	
女と猫	中山紀元	4.7.22— 10.31	渋谷区立松濤美術館, 辰野町郷土美術館	特別展 生誕百年 中川 紀元	
跡	海老原喜之助	4.8.9—9.22	三重県立美術館	アーティストとクリティ ック—批評家・土方定一 と戦後美術—	
信号台	岡 鹿之助	4.8.9—9.22	三重県立美術館	アーティストとクリティ ック—批評家・土方定一 と戦後美術—	
風景	菅井 汲	4.8.9—9.22	三重県立美術館	アーティストとクリティ ック—批評家・土方定一 と戦後美術—	
ボンヌフ	矢橋六郎	4.8.9—9.22	三重県立美術館	アーティストとクリティ ック—批評家・土方定一 と戦後美術—	
プラス・サンミッシェル	荒井龍男	4.8.18—10.3	大分県立芸術会館	荒井龍男展	
彩色サレタル歌	荒井龍男	4.8.18—10.3	大分県立芸術会館	荒井龍男展	
裸婦	荒井龍男	4.8.18—10.3	大分県立芸術会館	荒井龍男展	
虚穹	荒井龍男	4.8.18—10.3	大分県立芸術会館	荒井龍男展	
曠茫	荒井龍男	4.8.18—10.3	大分県立芸術会館	荒井龍男展	
過失に於ける歓喜への頌歌	荒井龍男	4.8.18—10.3	大分県立芸術会館	荒井龍男展	
西洋婦人	小林萬吾	4.9.4—10.7	富山県民会館美術館	日本の洋画史にみる人間 を描いた名作展	
浴室の二人の女	坂田一男	4.9.4—10.7	富山県民会館美術館	日本の洋画史にみる人間 を描いた名作展	
女	里見勝蔵	4.9.4—10.7	富山県民会館美術館	日本の洋画史にみる人間 を描いた名作展	
車中の少女	野田英夫	4.9.4—10.7	富山県民会館美術館	日本の洋画史にみる人間 を描いた名作展	
無限の網B	草間彌生	4.9.18— 12.16	草月美術館, 新潟市美 術館	草間彌生展	
鏡の部屋—愛は永遠に(Na3)	草間彌生	4.9.18— 12.16	草月美術館, 新潟市美 術館	草間彌生展	
アヴニュー・オッシュ	鹿子木孟郎	4.10.22— 12.4	京都市美術館	特別展 筆あとの誘惑	

作 品	作 者	期 間	貸 出 先	展覧会名	備考
雪景	里見勝蔵	4.10.22— 5.4.10	愛知芸術文化センター、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館	フォーヴィスムと日本近代洋画	
戦争A	飯田善國	4.10.30— 5.2.5	千葉県御宿町(月の沙漠記念館)	飯田善國展—画家としてのプロフィール	
戦争B	飯田善國	4.10.30— 5.2.5	千葉県御宿町(月の沙漠記念館)	飯田善國展—画家としてのプロフィール	
夜景	飯田善國	4.10.30— 5.2.5	千葉県御宿町(月の沙漠記念館)	飯田善國展—画家としてのプロフィール	
夜景	飯田善國	4.10.30— 5.2.5	千葉県御宿町(月の沙漠記念館)	飯田善國展—画家としてのプロフィール	
無限連鎖する絵画 part 2	諏訪直樹	5.1.22—2.27	〇美術館	ART IN JAPANES-QUE 現代の「日本画」と「日本画」的イメージ	
鳥たちの壁A	下村良之介	5.2.2—3.28	山種美術館	近代日本画への招待III—戦後日本画の展開—	
作品	三上 誠	5.2.2—3.28	山種美術館	近代日本画への招待III—戦後日本画の展開—	
無題	三上 誠	5.2.2—3.28	山種美術館	近代日本画への招待III—戦後日本画の展開—	
落ちる文字	不動茂弥	5.2.2—3.28	山種美術館	近代日本画への招待III—戦後日本画の展開—	
pagu	野村 耕	5.2.2—3.28	山種美術館	近代日本画への招待III—戦後日本画の展開—	

VI. 刊行

1. ピリエ(目黒区美術館ニュース)

目黒区美術館では、美術館活動の広報を目的に、美術館ニュース「ピリエ」を発行している。「ピリエ」(Piliers)は、フランス語で「柱、支柱」あるいは「支柱となる人、物」のことで、当館のエントランスホール正面にある4本の柱を意味している。

第8号

発行：1992年10月17日

サイズ：A4

ページ数：8頁

第9号

発行：1993年3月31日

サイズ：A4

ページ数：8頁

2. 目黒区美術館年報 平成3年度

発行：1993年3月1日

サイズ：B5

ページ数：54頁

3. 目黒区美術館所蔵作品選

発行：1992年12月18日

サイズ：A4

ページ数：73頁



年報平成3年度版



ピリエNo.8



ピリエNo.9



目黒区美術館所蔵作品選

VII. 区民ギャラリー

展 覧 会 名	期 間	延日数	主 催 者	入場者数
グループ KURO展	4.4.7-4.12	6	グループ KURO	550
第5回サークル線展	4.4.7-4.12	6	関沢いく子	540
草木染による染織作品展	4.4.14-4.19	6	加藤 宏	730
6 P	4.4.21-4.26	6	渡辺千左子	200
都市/都市的なるもの/photo/acrylic on paper/志村/高瀬	4.4.28-5.5	8	高瀬伸也	250
EXHIBITION	4.4.28-5.5	8	林 憲昭	700
さくひんはっぴょうかい	4.5.7-5.10	4	清水智子	305
民美25周年記念展	4.5.12-5.17	6	日本美術会	550
第5回ACRYLART展	4.5.19-5.31	12	ホルベイン・スカラシップ 実行委員会	1,521
さとうその子・かたち展	4.6.2-6.7	6	さとう その子	150
WORKS EXHIBITION	4.6.2-6.7	6	杉田幸夫	150
EXHIBITION SEVEN WORKS	4.6.9-6.14	6	斎藤公子	130
13人展	4.6.16-6.21	6	清水 聖	300
うつらうつら	4.6.23-6.28	6	大野珠生	150
木洋会展	4.6.23-6.28	6	木洋会	288
ハイラックスVol.1	4.6.30-7.5	6	江面貴亮	260
きえゆく近代洋風建築100景 中尾良一展	4.7.7-7.12	6	中尾良一	1,160
空(九期の会)展	4.7.28-8.2	6	市原直哉	300
目黒区美術家協会会員展	4.8.4-8.9	6	井上 慎	700
第7回らゆう展	4.8.11-8.16	6	らゆう会	550
第6回水彩鷺草会	4.8.18-8.23	6	松島 靖	758
武蔵野美術大学 版画部有志展	4.8.25-8.30	6	岡谷敦夫	190
団粒土壌	4.8.25-8.30	6	野々村健三	250
第10回萌画会展	4.9.1-9.6	6	萌画会	300
美術文化協会関東展	4.9.8-9.13	6	佐々浩美	284
5-66	4.9.15-9.20	6	荒川佐保	300
第35回「明日への手」児童美術展	4.9.22-9.26	5	芸術による教育の会	2,190
区民まつり「区民作品展」	4.9.29-10.4	6	区民まつり実行委員会	1,773
ばくろ展-目黒曼陀羅五人天図-	4.10.6-10.11	6	潮崎友美	216
家元池坊緑葉式	4.10.6-10.11	6	真田春静	388
第9回駒画会展	4.10.13-10.18	6	駒画会	450
グループ展“発熱”	4.10.20-10.25	6	坪内佐知子	200
目黒区勤労者美術展	4.10.27-11.8	12	目黒区勤労福祉会館	790
第7回バスケットリー展	4.11.10-11.15	6	秋山ひろ子	200
ステップIV IN TEXTILE	4.11.10-11.15	6	五十嵐 薫	5
目黒区自主グループ連合会30周年記念発表会	4.11.20-11.22	3	目黒区文化団体連合会	501
第35回ユネスコ美術展	4.11.20-11.29	10	目黒ユネスコ協会	485
CUBA現代版画展	4.12.1-12.6	6	目黒区国際交流協会	1,200
FIVE PAINTERS	4.12.8-12.13	6	小泉さかえ	120

展 覧 会 名	期 間	延日数	主 催 者	入場者数
92水耀会展	4.12.8—12.13	6	水耀会	500
武蔵野美術大学版画部展	4.12.15—12.20	6	武蔵野美術大学版画部	136
COLORS	4.12.15—12.20	6	森川美江	136
第19回書濤展	4.12.22—12.27	6	大濤書道会	400
「東」考展	5.1.5—1.10	6	山村竜一	300
第15回ATERIER EBIS展	5.1.12—1.17	6	アトリエ・エビス	350
中国北京市崇文区児童生徒書画作品展	5.1.21—2.9	17	目黒区	1,048
LAST WORKS	5.3.2—3.7	6	松木映子	100
FACE+FAITH	5.3.9—3.14	6	南 剛	220
大中国美術展	5.3.16—3.21	6	大中国美術展実行委員会	350
叛画展	5.3.23—3.28	6	加藤真子	435
環II	5.3.30—4.4	6	川原正毅	280
計51回		計331日		計24,339

VIII. ボランティア

生涯学習の振興に向けてボランティア活動の重要性が指摘される中、地域においても美術館を通しての社会奉仕活動を希望する人々が多く存在するようになってきた。美術館としてもそのような要望に応え、また住民ニーズを把握し、美術・文化活動の地域への振興を図っていくため、ボランティア活動を積極的に援助し、活用していく必要がある。

目黒区美術館では、昭和62年11月の開館時よりボランティアを受け入れ、現在はラウンジ(喫茶コーナー)運営、ワークショップ活動補助等を行うことを中心に、幅広い活動の展開を目指している。

- | | |
|--|--|
| <p>1. 参加者 70名</p> <p>2. 平成4年度募集 1名</p> <p>3. 活動内容</p> <p>(1)ラウンジ運営</p> <p>活動時間：午後0時30分から4時30分まで
(ラウンジ営業時間は午後1時から4時まで)</p> <p>当 番：原則として平日2名、土・日各3名</p> <p>(2)ワークショップ講座アシスタント</p> <p>ワークショップ・手と目の冒険広場 『色の博物誌・青ー永遠なる魅力』</p> <p>* どなたでもワークショップ・遊びの広場
一枚の青いおくりもの</p> <p>内容：紙漉き、マープリング、コラージュなどで自分の青い色をみつけてハガキをつくった。</p> <p>日時：8月1・4・5・11・12・13・14・15・18・19・25・26・27
9月4・5・11・12・13・15 全19日</p> <p>参加者数：950名
参加ボランティア数：24名(延べ64名)</p> <p>(3)研修講座の受講および自己研修(年間活動記録参照)</p> <p>(4)その他</p> <p>懇親会実施</p> | <p>24日 日本民藝館を見に行く会
参加者：22名
目的：目黒近辺の美術館を見学することにより、地域と密着した美術館のあり方等、今後活動を行っていくうえで有用な知識を得る。また、見学する展覧会の内容が「色の博物誌」展と密接な関係があるため。</p> <p>26日 ワークショップ講座「一枚の青いおくりもの」練習会</p> <p>11月12日 展覧会鑑賞会</p> <p>15日 「ロシアのころ・アイコン展」
解説：矢内みどり(学芸員)</p> <p>12月19日 展覧会鑑賞会
「美術が2倍半わかりそう逆入門展」
解説：正木 基(学芸員)</p> <p>平成5年2月10日 バスによる美術館見学会
訪問先：神代植物園、中近東文化センター、中村研一記念美術館
参加者：24名</p> <p>3月10日 展覧会鑑賞会
「安原喜明展」
解説：安原喜孝(陶芸作家、筑波大学教授)</p> |
| <p>4. 年間活動記録</p> <p>平成4年4月10日 展覧会鑑賞会
「シャガール ひびきあう色彩の詩展」
解説：矢内みどり(学芸員)</p> <p>5月22日 懇親会
展覧会鑑賞会
「絵筆のゆくえ、インテリアへの道 澤部清五郎展」
解説：山田敦雄(学芸員)</p> <p>6月ー8月 曜日班による美術館見学会
参加者：6班47名</p> <p>7月23日 ワークショップ講座「一枚の青いおくりもの」練習会</p> | |

IX. 名簿

(1)財団法人目黒区芸術文化振興財団理事・監事

(順不同, 平成5年3月31日現在)

役職	氏名	備考
理事長	田中 立久	目黒区助役
副理事長	平尾 眞	目黒区教育委員会教育長
常務理事	中島 巖	財団事務局長
理事	岩崎 吉一	東京国立近代美術館次長
〃	太田 清藏	東邦生命保険相互会社社長
〃	太田 久行	作家
〃	今中美耶子	弁護士
〃	鈴木 隆道	知識経験者
〃	小林フミ子	知識経験者
〃	佐藤 良春	目黒区総務部長
〃	大塩 晃雄	目黒区教育委員会社会教育部長
〃	加藤 貞雄	目黒区美術館長
監事	松田 幸夫	目黒区工業団体連合会会長
〃	石田 寛治	目黒区収入役

(2)財団法人目黒区芸術文化振興財団評議員

(順不同, 平成5年3月31日現在)

役職	氏名	備考
評議員	横山 大	目黒区議会議員
〃	橋本 茂	目黒区議会議員
〃	梅原 辰郎	目黒区議会議員
〃	下岡 興治	目黒区議会議員
〃	渡部 弘	目黒区議会議員
〃	野沢満理子	目黒区議会議員
〃	芳賀 力	目黒区教育委員
〃	横山 宏	目黒区社会教育委員
〃	古川 耕一	目黒区立第7中学校
〃	平島 明	目黒区立菅刈小学校
〃	井手 宣通	画家(平成5年2月1日死亡)
〃	岩壁富士夫	画家
〃	秋岡 芳夫	工業デザイナー
〃	續木 敏郎	書作家
〃	安原 喜孝	陶芸家
〃	松本 金光	目黒区こども会連合会会長
〃	影山 敏雄	新生文化普及協会理事長
〃	米山 ちよ	目黒区婦人団体連合会
〃	青木 進	住区住民会議連絡協議会
〃	新宅あつ子	目黒地区労働組合協議会副議長

(異動)

役職	氏名	在任期間
理事長	河原 勇	(昭和62年10月1日—平成2年10月4日)
副理事長	伊藤 一郎	(昭和62年10月1日—平成4年9月30日)
常務理事	佐々木英和	(昭和63年12月1日—平成2年3月31日)
理事	大庭美奈子	(昭和62年10月1日—平成元年3月31日)
〃	長田 晃	(昭和62年10月1日—平成2年3月31日)
〃	野沢満理子	(昭和63年6月7日—平成元年3月31日)
〃	栗山鈴木太郎	(昭和63年6月7日—平成元年3月31日)
〃	薬師寺克一	(昭和63年11月12日—平成2年11月30日)
〃	佐々木英和	(昭和63年11月12日—昭和63年11月30日)
〃	梅原 辰郎	(平成元年6月13日—平成2年5月31日)
〃	澤井 正代	(平成元年6月13日—平成2年5月31日)
〃	清水 眞邦	(平成2年6月19日—平成3年3月31日)
〃	岡田 弘	(平成2年6月19日—平成3年3月31日)
〃	俵 一郎	(平成3年6月12日—平成4年5月30日)
〃	石山 亨秀	(平成3年6月12日—平成4年5月30日)

(異動)

役職	氏名	在任期間
評議員	堀田 武士	(昭和62年10月1日—平成元年3月31日)
〃	中沢 信平	(昭和62年10月1日—平成元年3月31日)
〃	老田喜八郎	(昭和62年10月1日—平成元年3月31日)
〃	杉山 光男	(昭和62年10月1日—平成元年3月31日)
〃	祝迫 規之	(昭和62年10月1日—平成元年10月27日)
〃	小林 道男	(昭和62年10月1日—平成3年3月31日)
〃	佐々木松栄	(昭和62年10月1日—平成3年3月31日)
〃	有泉 譲	(昭和63年2月19日—平成3年3月31日)
〃	長谷川光延	(昭和63年6月14日—平成元年3月31日) (平成2年6月30日—平成3年3月31日)
〃	濱田 祐次	(昭和63年6月14日—平成3年3月31日)
〃	下岡 興治	(昭和63年6月14日—平成元年3月31日) (平成3年6月25日—)
〃	原川 薫光	(昭和63年6月14日—平成4年3月31日)
〃	本田 早苗	(平成元年6月20日—平成2年5月31日)
〃	安井 純夫	(平成元年6月20日—平成2年5月31日)
〃	原 千万年	(平成元年6月20日—平成2年5月31日)
〃	橋本 茂	(平成元年6月20日—平成3年3月31日) (平成4年6月20日—)
〃	小林 琢	(平成元年6月20日—平成3年3月31日)
〃	清水 愛吉	(平成元年6月20日—平成3年3月31日)
〃	平野 勲	(平成2年6月30日—平成3年3月31日)
〃	澤井 正代	(平成2年6月30日—平成3年3月31日)
〃	内池 三郎	(平成3年6月25日—平成4年3月31日)
〃	野村 利廣	(平成3年6月25日—平成4年5月30日)
〃	木村 洋子	(平成3年6月25日—平成4年5月30日)

(3)目黒区美術館資料収集委員会

(順不同, 平成5年3月31日現在)

役職	氏名	備考
委員長	三木 多聞	徳島県立近代美術館長
委員	桑原 住雄	武蔵野美術大学教授
〃	細野 正信	山種美術館学芸部長
〃	長谷部満彦	福島県立美術館長
〃	真室 佳武	東京都美術館事業課長

(異動)

役職	氏名	備考
委員	朝日 晃	(昭和62年10月1日—平成2年6月30日)

X. 沿革

- 昭和45年 長期計画基本構想で「芸術文化の振興の拠点として総合文化施設の設置」を決定
- 昭和54年7月 長期計画実施計画で「美術館の設置」を決定
- 昭和54年12月 美術館開設準備室設置
- 昭和55年3月 目黒区美術博物館建設検討委員会設置
- 4月 「東京都目黒区博物館資料取得基金条例」施行
- 昭和56年1月 目黒区美術博物館建設検討委員会答申「目黒区が建設する美術博物館の基本構想のあり方について」
- 3月 目黒区美術博物館建設専門委員設置
- 4月 目黒区美術博物館(仮称)設置の方針策定
- 11月 目黒区立美術館(仮称)資料収集委員会要綱を制定
- 昭和57年2月 博物館併設構想から美術館単独構想へ変更
- 3月 第一回資料収集委員会開催－資料収集を開始
- 10月 区制施行50周年記念事業に位置づけ
- 昭和59年2月 目黒区美術館(仮称)基本構想策定(58年6月策定開始)
- 10月 目黒区美術館(仮称)基本設計策定
- 昭和60年3月 目黒区美術館(仮称)実施設計策定
- 6月 目黒区美術館開設準備委員・臨時委員設置
- 8月 目黒区美術館開設準備顧問就任
目黒区美術館マーク制作
- 11月 「プレビュー・目黒区美術館」展開催(11/12-11/17)
- 12月 目黒区美術館(仮称)新築工事起工式(12/12)
- 昭和61年7月 美術館管理運営の財団委託方針決定
- 9月 「プレビュー・目黒区美術館2」展開催(9/9-9/15)
- 12月 目黒区美術館(仮称)新築工事定礎式(12/5)
- 昭和62年3月 「目黒区美術館条例」公布
- 4月 目黒区美術館新築工事落成式(4/14)
- 10月 財団法人目黒区芸術文化振興財団設立(10/1)
- 11月 目黒区美術館開館(11/15)

XI. 施設

●工事概要

建築

所在地：東京都目黒区目黒二丁目4番36号
地域・地区：住居地域・準防火地域・第3種高度地区
敷地面積：2,033.53m²
建ぺい率：66.45%
容積率：199.61%
構造・規模：鉄骨鉄筋コンクリート造
地上3階・地下1階
建物高さ：17.89m
延床面積：4,059.21m²
構造
主体構造：鉄骨鉄筋コンクリート造
その他：外壁花崗岩貼りジェットバーナー仕上げ(乾式工法)

工期：着工昭和60年12月2日

竣工昭和62年3月31日

設計・監理：株式会社日本設計事務所

建築：株式会社竹中工務店東京本店

空調設備：株式会社朝日工業社本店

衛生設備：足立工業株式会社東京支店

電気設備：中国電気工事株式会社東京支店

昇降機設備：横浜エレベータ株式会社

●面積表

展示・教育普及

展示室A：319.10m²

展示室B：170.46m²

展示室C：65.80m²

展示ロビー：44.80m²

ワークショップ：148.47m²

廊下・階段・その他：203.17m²

小計：951.8m²

区民ギャラリー

区民ギャラリー：379.53m²

控室：14.5m²

区民ギャラリーエントランス・階段・その他：198.82m²

小計：592.85m²

研究調査

資料室：102.79m²

修復室：46.09m²

小計：148.88m²

収蔵

収蔵庫A：408.36m²

収蔵庫B：53.85m²

前室：48.53m²

荷解室：62.58m²

搬出入口：56.57m²

展示用具室：73.40m²

エレベーター・倉庫・その他：229.63m²

小計：932.92m²

管理

事務室：58.05m²

館長室：32.47m²

理事長室：24.58m²

中央管理室：20.64m²

休養室：24.29m²

ワークショップ準備室：31.36m²

映像準備室：14.40m²

廊下・階段・その他：178.18m²

小計：383.97m²

ホール等

エントランス：169.85m²

ラウンジ：55.84m²

ベビーコーナー：5.27m²

廊下・その他：343.58m²

小計：574.54m²

機械室等

機械室：277.14m²

電気室：67.59m²

エレベーター機械室・自家発電電気室・その他：129.52m²

小計：474.25m²

合計：4,059.21m²

XII. 案内

観覧時間：10：00a.m.－6：00p.m.

(ただし入館は5：30p.m.まで)

休館日：月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始

観覧料：展覧会ごとにその都度定める。



交通案内：

●JR山手線目黒駅(西口)，東急目蒲線目黒駅より徒歩10分

●バス，渋谷駅より東急 渋41-大井町駅行，田道小学校入口下車3分

目黒駅より東急，都営

黒01-大岡山小学校行/

黒02-二子玉川園行/

黒06-三軒茶屋行/

恵73-弦巻営業所行/

東98-等々力操車場行/

権之助坂下車3分

平成4年度
目黒区美術館年報

1994年3月1日発行

編集・発行：目黒区美術館

〒153 目黒区目黒2-4-36

TEL.03-3714-1201(代)

制作：印象社